日向市図書館複合施設整備基本構想

（案）

令和8（2026）年〇月

日向市

目次

はじめに **1**
1. 基本構想の策定にあたって 1
2. これまでの経緯 2
3. 策定体制 3

第 1 章　基本的な事項 **4**
1. 上位計画について 4
2. 人口の将来展望 6

第 2 章　市民との共創とニーズの把握 **8**
1. 市民との共創と主な取り組み 8
2. 市民ニーズの把握と主な意見 10
3. 市民ニーズのまとめ 12

第 3 章　図書館複合施設の基本理念・コンセプト **13**
1. 基本理念 13
2. コンセプト 14
3. ひなたリビングから生まれる 4 つの体験 14

第 4 章　図書館複合施設に設ける環境 **16**
1. 新しい図書館複合施設に求められる環境 16
2. 各環境の役割 17

第 5 章　図書館複合施設の基本的な機能 **18**
1. 関連する公共施設の現状と今後の方向性 18
2. 図書館複合施設整備にあたっての視点と目指す姿 19
3. 導入する基本的な機能と体験の循環 20
4. 各機能の整理 21

第 6 章　候補地の選定 **29**
1. 中心市街地における市有地の比較 30
2. 候補地の決定 31

第 7 章　施設の規模と概算事業費 **32**
1. 機能構成と施設規模の整理 32
2. 建物配置の基本的な方向性 33
3. 概算事業費 36

第 8 章　事業手法について 37
1.　主な事業手法の整理 37
2.　PPP/PFI 手法の評価..... 37
3.　適切な PPP/PFI 手法の選択 38
4.　小さな公民連携（PPP）の導入 39
第 9 章　今後の進め方 40
1.　基本計画の策定に向けて 40
2.　事業スケジュール 41
参考資料 42
1.　これまでの取り組みの結果詳細（令和 7（2025）年度の取り組み） 43
2.　関連する公共施設の状況 65
3.　事業手法の検討 70

はじめに

1. 基本構想の策定にあたって

近年、人口減少や少子高齢化、デジタル技術の進展など、社会環境が大きく変化する中で、図書館に求められる役割も多様化・高度化しています。図書館は従来の本の貸出だけでなく、地域の「知の拠点」や「交流拠点」としての機能が強く期待されています。

日向市立図書館は、旧日向保健所を改修し平成 9（1997）年に開館しましたが、建物は築 60 年を経過し、施設の老朽化や安全性・快適性の面で課題があります。高齢者や障がいのある方にも利用しやすい環境とは言えず、市民の多様なニーズに応えるサービスの向上が求められています。

日向市では、少子高齢化と若者の流出による人口減少が進み、まちの活力が低下しています。このような状況を踏まえ、第 3 次日向市総合計画では「人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向」を将来像に掲げ、若者や子育て世代が魅力を感じるまちづくりを推進しています。

令和 6（2024）年度に策定した日向市図書館複合施設整備基本方針（以下「基本方針」という）では、「学びの種をまき、創造の芽を育て、希望の実を結ぶ市民のサードプレイス」を基本理念とし、特に、こどもや子育て世代、若者を主なターゲットとし、学びや交流、子育てを支える環境づくりに取り組むとともに、誰もが安心して快適に過ごせる「第三の居場所（サードプレイス[1]）」として、すべての世代が集い、成長できる場の提供を目指すこととしています。

日向市図書館複合施設基本構想（以下「基本構想」という）は、この基本方針を踏まえ、新たな図書館複合施設（以下「図書館複合施設」という）の具体的な検討・整備に向けた指針として策定するものです。

市民アンケートやワークショップ、市民との共創による実証実験「日向ラボ・ラボ」など、多様な取り組みを通じて把握した市民ニーズを反映し、図書館複合施設に求められる機能や規模、整備のコンセプトを総合的に整理します。

また、公共施設マネジメント[2]の観点から既存施設との統合・複合化も検討し、機能向上やコスト削減の最適化を図ります。

基本構想は、今後策定する日向市図書館複合施設基本計画（以下「基本計画」という）や設計の基礎となる指針として活用し、市民一人ひとりに親しまれ、誇りに思える図書館複合施設の実現に向けて取り組みます。

なお、基本構想で定める内容は、現時点での検討に基づく指針であり、今後の社会情勢の変化や次段階の検討過程で明らかになる課題・可能性を踏まえて、柔軟に変更する場合があります。次段階の基本計画において、さらなる検討と精査を重ね、よりよい施設の実現に向けて継続的に具体化を進めていきます。

---

[1] サードプレイス：家庭という「第一の居場所」、職場や学校という「第二の居場所」に対して、それ以外の場所で人々が自由に集い、くつろぎ、交流できる場を指す。

[2] 公共施設マネジメント：建物を最適に管理・活用し、将来世代に負担を残さないよう効率的に運営すること。

2. これまでの経緯

（1） 図書館複合施設整備に向けたこれまでの経緯

年月	主な取り組み内容
令和 3(2021)年 4 月～	庁内ワーキンググループによる調査研究（先進地視察等）
令和 5(2023)年 3 月	図書館等複合施設整備調査研究報告書の作成
令和 6(2024)年 10 月	日向市図書館複合施設整備検討委員会の設置
令和 7(2025)年 3 月	日向市図書館複合施設整備基本方針の公表

（2） 日向市駅を中心としたまちづくりと市民参画

日向市では、これまでのまちづくりにおいて、単なる施設整備にとどまらず、市民が主役となってまちを育て、活用するプロセスを重視してきました。

平成 18（2006）年に完成した日向市駅及び駅周辺の整備では、「木を活かしたまちづくり」をテーマに、地元産材を積極的に活用した温かみのある空間を創出しました。この整備にあたっては、多くの市民や関係者が議論を重ね、完成後も「まちは舞台、人が主役」を合言葉に、市民によるイベントや清掃活動など、主体的な「まちづかい」が広がっています。

また、平成 30（2018）年に開庁した現市庁舎の建設では、「市民が奏でる“交響”空間」をキャッチフレーズに、市民懇話会などを通じて徹底した対話を重ねました。防災拠点としての機能を備えつつ、市民が日常的に集い、憩える「たまり」空間を設けることで、用事がなくても訪れたくなる「市民に開かれた庁舎」を実現しています。

これらの取り組みを通じて、日向市では共創の精神と市民参画の文化が根付いてきました。今後整備する図書館複合施設においても、この「共創」の精神と市民参画の文化を継承し、すべての市民が自分らしく過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」づくりに取り組みます。

図 1：日向市駅

図 1：日向市庁舎

3. 策定体制

策定体制としては、庁内の政策会議や検討委員会に加え、アドバイザリー会議、日向ラボ・ラボ、新しい図書館を語る会、図書館アンケートなど市民が直接参画できる機会を設けました。

市民アンケートや日向ラボ・ラボでは、蔵書の充実や多世代が自由に利用できる「居心地のよい空間づくり」など、多様なニーズや期待が寄せられました。

また、アドバイザリー会議では、「図書館本来の役割の充実」や「こども・若者の居場所づくり」などについて提言を受け、基本構想に反映しました。

図 2：策定体制

第1章　　基本的な事項

1. 上位計画について

（1）　第3次日向市総合計画・前期基本計画（令和7（2025）年1月）

「第 3 次日向市総合計画・前期基本計画」の基本構想では、まちづくりを進めるうえで重視する考え方として、「人権尊重」「市民協働・共創」「地域力活用」を掲げ、「人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向」を将来像としています。

図書館複合施設については、前期基本計画の「分野別施策及び重点戦略」の中で、「市民の知の拠点、交流の拠点として複合的な機能を備えた新たな図書館整備に向けて取り組む」と定められています。

図 3：第 3 次日向市総合計画・前期基本計画における該当記載

（2）　日向市公共施設等総合管理計画（令和5（2023）年3月改訂版）

「日向市公共施設等総合管理計画」では、市の公共施設マネジメントに関する今後の基本的な考え方として、「安全・安心の確保」「総量の最適化」「ライフサイクルコスト[3]の縮減」を掲げています。将来世代に負担を残さない最適な公共施設の保有とサービスの提供を目的とし、計画期間中の目標として、普通会計[4]における建物系施設（延床面積）の 30%削減を設定しています。

＜基本理念＞

将来世代に負担を残さない、最適な公共施設の保有とサービスの提供

＜基本目標＞

公共施設マネジメント三原則

「安全・安心の確保」「総量の最適化」「ライフサイクルコストの縮減」

建物などの公共施設については、将来の人口減少や少子高齢化といった社会の変化を踏まえ、各施設が持つ機能やサービスの必要性を見直しています。

必要性が低いと判断された施設については、他の用途への転用や有効活用を検討し、活用方法が見つからない場合には、廃止や処分も視野に入れています。

一方で、今後も必要とされる機能を持つ施設については、建て替えや更新の際に、周辺の施設や同種の施設の配置状況などを考慮し、集約や複合化を進める方針としています。

図 4：統合（集約、複合化、転用）のイメージ
出典：日向市「日向市公共施設等総合管理計画」（令和 5（2023）年 3 月改訂版）

---

[3] ライフサイクルコスト：建物の建設から毎日の維持管理、将来の解体・処分までにかかる費用の総計。

[4] 普通会計：自治体間の財政状況を比較できるよう、共通のルールで集計した会計区分のこと。

（3）　関連計画を踏まえた総合的な方向性

基本方針では、市の総合計画や関連する各種計画（総合戦略、都市計画マスタープラン、公共施設等総合管理計画、教育大綱など）を踏まえ、図書館複合施設の整備の方向性を、以下のとおり整理しています。

1. こどもの読書活動を支える教育・学習拠点の強化
2. 中心市街地の活性化に寄与する立地と機能
3. 生涯学習社会の実現に向けた多機能化
4. 若者の定住・交流促進、シビックプライド[5] の醸成に資する魅力的な空間づくり
5. デジタルによる読書推進

2. 人口の将来展望

（1）　将来人口推計

以下の図は、令和 2（2020）年度に本市が改訂した人口ビジョンによる推計（以下「R2 推計」という）と、内閣府の人口推計ワークシートを用いた国立社会保障・人口問題研究所に準拠した推計（以下「社人研準拠推計」という）を比較したグラフです。

社人研準拠推計では、R2 推計よりも人口減少の傾向が強く、令和 32（2050）年の本市の人口は 42,322 人と推計されています。長期的には、人口減少がより進む見通しであることが分かります。

図 5：将来人口推計（社人研推計準拠と R2 推計の比較）
出典：日向市「日向市人口ビジョン」（令和 6（2024）年 8 月改訂版）

[5] シビックプライド／CivicPride：地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識を指す言葉。

（2）　将来人口推計（年齢3区分別）

以下の図は、将来人口推計（社人研準拠推計）を年齢 3 区分別に示したものです。

令和 2（2020）年には、65 歳以上の人口が全体の 32.7%を占めており、令和 32（2050）年には 43.0%まで高まると予測されています。

一方、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口[6]は、令和 2（2020）年の 53.7%から令和 32（2050）年には 46.3%まで減少すると推計されています。

図 7：将来人口推計（社人研準拠推計）　年齢 3 区分別推移
出典：日向市「日向市人口ビジョン」（令和 6（2024）年 8 月改訂版）

（3）　人口の将来展望

日向市の人口ビジョンでは、令和 32（2050）年の人口目標を 44,000 人と設定しています。

今後も人口減少と少子高齢化が続く見通しの中で、**図書館複合施設の整備にあたっては、この人口目標を基準とし、将来の利用者規模や年齢構成を考慮した空間設計・サービス計画を進めます。**

令和32（2050）年数値目標　人口 44,000人

[6] 生産年齢人口：経済活動を支える中心的な世代となる、15 歳から 64 歳までの人口のこと。

第2章　　市民との共創とニーズの把握

1. 市民との共創と主な取り組み

図書館複合施設の整備では、市民との共創を最も重視しています。アンケート調査、ワークショップ、関係団体との意見交換、日向ラボ・ラボ、新しい図書館を語る会、サウンディング型市場調査[7]など、多様な世代や立場の市民が主体的に参加できる場を設け、幅広い意見を収集しました。

＜主な取り組みと成果＞

年度	取り組み内容	概要	成果など
令和6（2024）年度	市民アンケート調査	市民を対象に課題、ニーズ等を調査（395件回答）	家族連れや子育て世代、若者、高齢者など幅広い層が参加し、施設への期待や具体的な課題が浮き彫りとなった。
	市民ワークショップ	全2回 市民参加型の意見交換	「親子で参加できる料理教室やものづくり体験」「カフェスペースの設置」などのアイデアが多数。「多世代交流」「地域イベント」「市民が主役となる場」への期待が寄せられた。
	関係団体との意見交換	全3回	日向市図書館協議会、日向商工会議所、子育て支援団体との意見交換を実施。各団体の専門性や地域課題が反映され、施設の多機能化や地域連携の方向性が明確になった。
令和7（2025）年度	日向ラボ・ラボ	全7回 市民による実証実験・アイデア創出	市民が実験的にアイデアをかたちにし、施設整備への具体的な提案や体験を通じたフィードバックが得られた。
	新しい図書館を語る会	全10回 関係団体との意見交換	図書館関係者、保育所・幼稚園関係者、文化団体、中央公民館利用団体、障がい者団体、経済団体等との意見交換を実施。多様な利用団体の立場から、運営面・空間面の課題や連携の可能性が明確になった。
	サウンディング型市場調査	9社参加 地元事業者等への参画・事業提案のヒアリング	地元企業・団体の参画意欲が高く、施設の賑わいや地域経済活性化への可能性が示された。

※これまでの取り組みの結果詳細は「参考資料」のp.44を参照。

[7] サウンディング型市場調査：事業の検討段階で、市が民間事業者と直接対話し、事業への意見や提案を聞く調査。

日向ラボ・ラボ（令和7（2025）年7月～令和8（2026）年2月）

日向ラボ・ラボは、対話の手法であるリビングラボ[8]と、実証・検証を意味するラボラトリー（laboratory）の「ラボ」を組み合わせた名称です。日向ラボ・ラボでは、市民自らが図書館複合施設で「やってみたいこと」や「ほしい機能」を提案し、そのアイデアを実際に体験・検証できる場を設けました。

これまでの全 7 回の開催の中で、多様な世代・立場の市民が参加し、イベント等を通じて意見や具体的なニーズなどを共有してきました。

第 1 回	北欧型図書館に関する講演。理想の図書館に関するアイデア 100 個を提案するワークショップ。
第 2 回	屋内遊び場や移動図書館、読み聞かせ、育児相談など親子向けイベントを実施。
第 3 回	中高生が行きたくなるカフェづくりをテーマとした体験型ワークショップ。
第 4 回	若者の居場所づくりに関する講演。「若者が来たくなる図書館」をテーマとしたワークショップ。
第 5 回	新潟県小千谷市ひと・まち・文化共創拠点「ホントカ。」の事例学習。職員や市民との意見交換。
第 6 回	図書館とまちのにぎわいをテーマに施設完成までにやりたい企画のロードマップ作成。
第 7 回	図書館への愛着を深めるための本箱づくりワークショップ。

図 8：日向ラボ・ラボの概要

[8] リビングラボ／Living Lab：実際の生活の場に近い環境で、市民が使い勝手を試し、改善策を練る手法のこと。

2. 市民ニーズの把握と主な意見

市民との共創の取り組みを通じて、以下のような多様なニーズや意見が寄せられました。

（1） 図書館に求められる役割・空間

図書館は「知の拠点」としての役割に加え、世代や立場を問わず多くの人が集い、誰もが自分らしく過ごせる“居場所”としての機能が強く求められています。

【主な声】

「ゆっくり過ごせる場所」「気軽に立ち寄れる場所」

「家族で気軽に行ける場所がほしい」「何時間でも過ごせる雰囲気が大事」

「こどもにゆったりと読み聞かせができるスペース」

「にぎわいのある図書館」「読書がしやすい環境」

「本を借りるだけでなく、人と出会える場所にしてほしい」

「会議やミーティング、コミュニティの場としても使いたい」

（2） こども・子育て世代のための空間・サービス

親子が安心して利用できる専用スペースや設備、年齢に応じたゾーニング、イベントや遊び場の充実が重要です。

【主な声】

「親子で安心して過ごせるスペースがほしい」「屋内遊び場や、親子で参加できるイベント」

「授乳室・おむつ替えスペースなど、子育て世代が安心して利用できる設備が必要」

「親子で「本を読む・遊ぶ・相談する・休む」を同じ場所でできるとよい」

「動と静の遊具のバランスが重要」

「静かな場所とにぎやかな場所を分けてほしい」

（3） 若者・学生のための居場所・学習環境

若者・学生が自分らしく過ごせる、学び・交流・体験ができる場の提供が求められています。

【主な声】

「友達と集まって話せるカフェやフリースペースがほしい」

「勉強ができる席、Wi-Fi や電源、夜間利用の充実」

「自由に過ごせる空間が必要」

「体験できる場づくり」

(4)　本・資料・情報サービスへの要望

蔵書の多様化・充実とともに、ICT やデジタルサービスの導入による利便性向上が求められています。

【主な声】

「小説、絵本・児童書、趣味、専門書など、多様なジャンルの充実」

「電子書籍、セルフ貸出機、インターネット座席予約など、ICT・デジタル化が必要」

(5)　飲食・カフェ・多目的スペース

図書館の新たな魅力・交流拠点となるため、カフェ・物販スペースの確保が求められています。

【主な声】

「カフェが併設されていれば利用したい」「飲食可能なスペース」

「コーヒーを飲みながら読書できる施設」

「キッチンカーや出店、ポップアップストアなどの要望」

「飲食できるデッキ、雨天でもイベント可能な施設構成の要望」

(6)　多目的・イベント・市民活動スペース

市民の主体的な活動・交流・体験を支える多目的スペース等の整備が求められています。

【主な声】

「ワークショップや講演会、こども向け・地域文化イベントなど、多世代・多目的に使える空間」

「ホールや会議室の併設」「防災機能の充実」

「講座・ワークショップ・子育て支援・創作・まちづくり支援など多様な市民の関わり」

(7)　使いやすさ・利便性・立地

利用者が安心して快適に利用できるよう、立地やアクセス、バリアフリー化など、利便性とアクセシビリティの向上が求められています。

【主な声】

「十分な駐車スペース」「公共交通が利用しやすい」「市全域から行きやすい場所」

「開館時間の延長、休館日の要望」「バリアフリー設計や授乳室・おむつ替えスペースの充実」

「誰でも気軽に立ち寄れる開放的な雰囲気」「多世代・市外利用者にも配慮」

「連携・波及効果：中心市街地への波及、市役所・学校・学校図書との連携」

3. 市民ニーズのまとめ

アンケートやワークショップ、日向ラボ・ラボでの実証実験を通じて、図書館複合施設には、子育て世代や若者をはじめ、あらゆる世代が安心して自分らしく過ごせる「居心地のよい居場所」が強く求められています。

また、図書館複合施設には、単なる知識の習得にとどまらず、市民がワークショップやイベント等を通じて自ら手を動かし、創造的な活動に発展させていく「学びから創造を育む場所」としての役割が期待されています。

さらに、こうした活動や交流を通じて、市民同士や地域社会が緩やかにつながり、新たなアイデアや価値が生まれる「つながりを発展させる場所」や「地域の発展の拠点」としての役割が期待されています。

図 9：市民ニーズのまとめイメージ

このような人と人とのつながりが地域の活力へと発展する循環を見据え、市民のアイデアをかたちにしながら、日向の未来を共に育む施設の実現を目指します。

次章では、これらのニーズを踏まえ、図書館複合施設の基本理念とコンセプトについて整理します。

第3章　図書館複合施設の基本理念・コンセプト

基本方針に定めた基本理念や第 2 章で把握した多様な市民ニーズや意見を基に、本章では、これらの声をどのように施設のコンセプトに反映させるかを整理します。市民一人ひとりが安心して自分らしく過ごせる居場所や世代を超えた交流・学び・創造の場を実現するために、図書館複合施設の目指すべき基本理念とコンセプト、そして今後の空間づくりの方向性を示します。

1. 基本理念

図書館複合施設の基本理念は、**「学びの種をまき、創造の芽を育て、希望の実を結ぶ 市民のサードプレイス」**です。

この理念には、施設が市民一人ひとりの知性や感性を育み、その成果が地域全体の活力となることへの願いが込められています。図書館を「知の拠点」とし、特にこどもや子育て世代、若者を中心に、学びや交流、子育て支援の充実を図り、すべての世代が安心して快適に過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」の実現を目指します。

【方針１】「学びの種をまき」

人々に学びの機会やきっかけを提供し、知識の基礎を築く

【方針２】「創造の芽を育て」

学びを通じて得た知識を基に、創造性や新たなアイデアを育む

【方針３】「希望の実を結ぶ」

学びと創造の成果が、個人や地域の未来への希望や発展につながる

【方針４】「市民のサードプレイス」

誰もが安心して快適に過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」

2. コンセプト

図書館複合施設には、子育て世代や若者をはじめ、あらゆる世代が安心して自分らしく過ごせる「居心地のよい居場所」が強く求められています。

これらの声を受け、図書館複合施設のコンセプトを

「市民が集まるひなたリビング ～みんなの学びと創造、未来を育む自由な居場所～」

と定めます。

「ひなたリビング」は、本を読む、創造活動に励む、学び交流する、心地よくくつろぐなど、誰もが思い思いに過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」です。新しいことへの挑戦、人や本との出会いを通じて、自分の可能性を広げ、地域や仲間とのつながりが生まれます。

この施設が、市民の日常に安心と発見をもたらし、多様な世代が集い、学びや交流を重ねながら、まちの未来を共に育む拠点となることを目指します。

3. ひなたリビングから生まれる 4 つの体験

市民の声を、図書館複合施設で生まれる「出会う」「広げる」「つながる」「くつろぐ」の 4 つの体験という視点で整理しました。

これら 4 つの体験を軸に、図書館複合施設は、ただ「本を読む・借りる」だけの場ではなく、「学びの種をまき、創造の芽を伸ばし、希望の実を結ぶ、市民のサードプレイス」として、市民の声を継続的に反映し、多様な活動・体験・交流が生まれる場づくりを進めていきます。

- 出会う：新しい本や人、さまざまな知識と偶然出会い、自身の世界を広げることができます。多様な本やイベントを通じて、新しい世界や自分の「好き」を発見する好奇心の種をまいていきます。
- 広げる：学びや創造の芽を伸ばし、興味やスキルをさらに深めていくことができます。ものづくりや体験イベント、学習スペースなどで、自ら挑戦し成長できる機会を提供します。
- つながる：世代や地域、さまざまな人や団体がつながり、未来を育む拠点です。市民活動や地域イベント、学校や企業との連携など、多様な交流を通じて新しい価値や活力を生み出していきます。
- くつろぐ：誰もが安心して自由に過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」です。一人でも、友人や家族と一緒でも、誰といても心地よく過ごせる場所、カフェやバリアフリーなど、居心地のよさと利便性に配慮した空間・サービスを提供します。

図 10：ひなたリビングから生まれる 4 つの体験

この基本理念・コンセプトを基に、次章では図書館複合施設に設ける環境の具体像について整理します。

第4章　図書館複合施設に設ける環境

本章では、第 3 章で示した基本理念・コンセプトを踏まえ、市民ニーズや現代的な要請に応え、図書館複合施設に備えるべき環境について、以下のように整理しました。

1. 新しい図書館複合施設に求められる環境

基本理念及びコンセプトの実現には、「出会う」「広げる」「つながる」「くつろぐ」という 4 つの体験を包み込む多様な環境が必要です。一人で静かに自分と向き合う時間も、誰かとにぎやかに交流する時間も、同じ屋根の下でどちらも大切にできる空間を目指します。ここでは、図書館複合施設が具体的に備えるべき環境のあり方を整理します。

【主な環境】

（1）　「ひなた」のような温もりのある環境（空間）

■　こども・若者が集まりたくなる「静かすぎない図書館」

本事業の重点ターゲットである「こども・若者・子育て世代」が自分らしく過ごせる環境を軸としつつ、市民一人ひとりが自由に情報に触れられる環境を整えます。集中して学べる静かな空間と、会話や飲食を許容するにぎやかな空間が緩やかに共存することで、こどもたちの活気が多世代の刺激となり、世代を超えて共に学びを育む空間づくりを目指します。

■　自然を感じる「くつろぎ空間」

多世代の市民･来館者が集い、交流やくつろぎを楽しむことができる場として、カフェや広場、テラスなど、自然光や緑を取り入れた居心地のよい環境を整えます。

（2）　「リビング」としての交流・活動環境

■　親子が安心して過ごせる「子育て支援・遊び場スペース」

「子育て世代とそのこども」を主な利用層とし、こどもの成長を見守れる屋内遊び場や相談・健診機能等を備え、親子が安心して過ごせる環境を提供します。

■　学びと実践を支える「創作活動、イベント空間」

講演会や発表会、マルシェなどのさまざまなイベント活用に加え、ものづくり体験などの多様な活動を通じて、市民一人ひとりの興味や学びを広げ、新たな挑戦を後押しする環境を提供します。

これらの環境は、あらゆる世代・立場の人が快適に利用できるよう設計し、世代や目的を超えた交流・体験が生まれる拠点となることを目指します。

2. 各環境の役割

本施設が「市民のサードプレイス」として機能し、誰もが自分らしく過ごせる場となるよう、具体的な市民ニーズに対して各環境が果たす役割を以下の図のとおり整理しました。

図 11：主な市民ニーズと図書館複合施設の役割の対応例

第5章　図書館複合施設の基本的な機能

1. 関連する公共施設の現状と今後の方向性

これまでの公共施設は、老朽化や利用率の低下、機能の分散といった課題を抱えていました。図書館複合施設に機能を集約・再編することで、効率的な運営と多世代が利用しやすい環境の実現、地域全体の活性化を目指します。そこで、図書館複合施設に関連する公共施設の現状と今後の方向性を整理します。

施設名	現状と課題	今後の方向性	移転後の既存施設
図書館	築 60 年以上が経過し、老朽化。スペースが狭小で設備も不足。利用者が減少、特に若者・子育て世代の利用が少ない。	新施設に機能移転し、施設を拡充。設備を充実、バリアフリー化、開館時間延長等で利便性を向上。学校・公民館図書室との連携強化。	既存図書館は、他の機能としての活用や廃止を含めて検討。
日向市民健康管理センター	旧館・新館共に老朽化。母子保健・健診機能、こども家庭センター「ひなたの森」があるが、職員は市庁舎にいるため機能が分散している。	母子保健・健診機能、こども家庭センター「ひなたの森」を新施設へ集約し、職員常駐体制を構築。子育て支援・相談機能を一体化する。	既存施設は、一部健診機能のバックアップとしての活用や行政サービス機能の移転を検討。
中央公民館	老朽化による維持補修の増加、利用率低下。ホールの規模・設備が市民ニーズに合っていない。利用団体の固定化・高齢化。若者や子育て世代の利用が少ない。	ホールや諸室などの機能を縮小し、新施設に移転。 一部機能は文化交流センター小ホール 2 階（市民活動支援センター跡）へ移転。	既存施設は、取り壊し。 文化交流センターと併用している機能は検討。
市民活動支援センター・男女共同参画推進ルーム	市民活動支援センターは、利用団体が固定化、稼働率が低下しており、一般利用者がほぼいない。令和 8（2026）年度以降は地域コミュニティ課が移転し、直営で管理。	会議室機能などを縮小し、新施設に移転し、市民の交流・活動の拠点として再構築。 男女共同参画推進ルームは市庁舎等へ移転。	既存スペースは、中央公民館の一部機能の移転先や、文化活動拠点としての活用を検討。
東郷地区文化センター	ホールはほぼ利用していない。文化財収蔵・保管が中心。老朽化が進行。	ホール機能を新施設へ統合し、文化センターとしての機能は廃止。	収蔵・保管機能は必要に応じて一部継続。
地域子育て支援拠点	市が「NPO 法人こども遊センター」に事業を委託し、商工会館内で実施。利用者が限定的。地域子育て支援事業（週 5 日）の土日開設や屋内遊び場の拡充の要望が高い。	新施設に機能を移転。地域子育て支援事業を週 6 日に拡充。屋内遊び場を拡充。 「静」と「動」の遊具を配置。	既存スペースは、地域ニーズに応じた活用を検討。

図書館複合施設への機能集約・再編は、既存施設の老朽化や利用率低下、機能分散といった課題を解決し、地域全体の活性化と効率的な運営を実現するためのものです。移転後も、既存施設の利活用や残すべき機能については、地域ニーズや効率性を踏まえ、柔軟に検討していきます。

※各施設（図書館、日向市民健康管理センター、中央公民館、市民活動支援センター等）の状況の詳細については参考資料の p.67 を参照。

2. 図書館複合施設整備にあたっての視点と目指す姿

図書館複合施設は、「みんなの知りたい・やってみたい」を支える地域の拠点として、誰もが安心して快適に過ごせる「みんなの居場所」を目指します。

本を読む・調べるだけでなく、親子で遊びや学びを楽しみ、市民がワークショップやイベントを通じて新しい体験や交流を生み出すなど、多様な世代が主体的に関わり、学び合い・つながり合う空間を実現します。

（1） 知識・情報へのアクセス

豊富な本や地域資料、デジタル情報など、こどもから高齢者まで誰もが必要な知識や情報に自由にアクセスできる環境を整えます。

（2） 体験・交流・創造の広がり

読書や学習だけでなく、ワークショップやイベント、ものづくりや創作活動など、多様な体験や交流ができる場を提供します。

（3） 多機能が融合する第三の居場所（サードプレイス）

図書館機能に加え、子育て支援、生涯学習、市民活動、カフェなど多様な機能を一体的に備え、家庭や学校、職場とは異なる「第三の居場所（サードプレイス）」として、思い思いに過ごせる空間を実現します。

（4） 多世代・多様性への配慮

誰もが使いやすいバリアフリー設計や案内表示、静かな読書スペースとにぎやかな交流スペースをバランスよく配置し、多様なニーズに応えます。

（5） 市民が主役の活動拠点

市民が自ら企画・実践できるスペースや発表の場を設け、特に若者や子育て世代が利用しやすい体験・交流の場づくりを推進します。

（6） 地域性・デザインへのこだわり

郷土資料や地域資源を活かし、日向市の自然や文化と調和したデザインを取り入れ、地域のシンボルとなる施設を目指します。

（7） 複合化による相乗効果

図書館機能と子育て支援などを一体的に提供し、親子の長時間滞在やワンストップサービスを実現。複合化による新たな価値と魅力を創出します。

3. 導入する基本的な機能と体験の循環

図書館複合施設には、図書館機能だけでなく、子育て支援、生涯学習、市民活動支援、カフェや広場など多様な機能を導入します。これらの機能は、相互に連携し、「出会う」「広げる」「つながる」「くつろぐ」という 4 つの体験が施設内で重なり合い、市民の新たな挑戦や学び、交流が生まれます。

例えば、図書館の読み聞かせイベントでは、「出会う」「つながる」「広げる」体験が同時に得られ、カフェスペースでは、くつろぎながら新しい人や活動との出会いが生まれます。このように、一つの活動や空間で複数の体験が生まれ、施設全体が「大きなリビング」として市民の共創や新しい価値創出のきっかけとなります。

導入機能	体験 出会う	体験 広げる	体験 つながる	体験 くつろぐ
図書館	新しい本や情報との出会い	メディアや講座で知識を深める	読書会やイベントで交流	静かに読書・思い思いに過ごす
子育て支援	親子向けイベント	遊びや体験で成長を促す	育児仲間とのつながり	安心して親子でくつろぐ
生涯学習	地域活動・講座への参加	趣味や創作活動の広がり	市民活動や世代間交流	交流スペースで自由に過ごす
市民活動支援	新しい活動との出会い	プロジェクトで力を伸ばす	協働やネットワークづくり	活動の合間にリラックス
カフェ・広場など	偶然の出会い・会話	アイデアや交流の広がり	多世代交流やイベント	コーヒーや軽食でくつろぐ

図 12：機能連携が生み出す体験

こうした体験の循環が、学びや創造、人と人とのつながりを生み、市民の活動を地域へ広げ、新しい文化や価値を生み出します。その成果が次世代の「出会い」の種となり、持続的な発展につながります。

図 13：図書館複合施設を通した体験の循環

4. 各機能の整理

（1） 図書館機能

【目的】

市民一人ひとりが自由に学び、知識や情報を得て成長できる「知の拠点」となることを目指します。あらゆる世代・立場の人が、気軽に本や情報に触れられる環境を提供します。

【主な機能】

- 豊富な蔵書（一般書、児童書、ティーンズ、若山牧水・郷土資料等）とバリアフリー図書、地域資料、デジタルアーカイブの整備
- 多様な閲覧・学習スペース（静かな個別席、グループ学習席、親子読書コーナー、イベントスペース等）
- ICT を活用したセルフ貸出・返却、本の IC タグ化、インターネット端末・Wi-Fi の提供
- 市民参加型の企画展示やイベント、調べもの支援・AI レファレンスサービス[9]

【特徴・工夫点】

- 開架率を高め、誰でも自由に本と出会えるレイアウト
- 配架・展示の工夫で興味を引く棚づくり、特集展示の定期開催
- 児童書・ティーンズ向けコーナーの充実、若山牧水資料コーナーの設置
- バリアフリーな動線・案内表示、多言語対応

【ターゲット層・利用シーン】

親子での読書や学生の自習、シニアの趣味・調べもの、地域住民の交流の場などこどもから高齢者まで幅広い利用を想定

[9] AI レファレンスサービス：図書館の司書が、市民の本探しや調べもの、情報へのアクセスを手伝うサービスをレファレンスといい、これを AI によって膨大なデータを使って素早くサポートする仕組み。

図書館のイメージ

図 14：菊池市生涯学習センターKiCROSS
（閲覧スペース）
【熊本県菊池市】

図 15：菊池市生涯学習センターKiCROSS
（児童コーナー）
【熊本県菊池市】

図 16：那須塩原市図書館 みるる
（書架）
【栃木県那須塩原市】

図 17：Mallmall
（企画展示）
【宮崎県都城市】

（2）　子育て支援機能

【目的】

　こどもや子育て世代が安心して過ごせる「親子の居場所」として、成長や子育てを支える機能を提供します。

【主な機能】

- キッズコーナー、親子スペース、未就学児向け屋内遊び場
- 授乳室・おむつ替えスペース
- 子育て相談窓口、一時預かり、母子健診・子育て講座
- 放課後の居場所や学習支援スペース

【特徴・工夫点】

- 見守りやすく安心して利用できる設計、親子で参加できるイベントやワークショップの開催
- 年齢別ゾーニング、子育て世代同士や多世代交流が生まれる仕掛け

【ターゲット層・利用シーン】

未就学児～小学生とその保護者、子育て世代が親子で遊ぶ、相談する、学ぶ、交流する場

子育て支援機能のイメージ

図 18：須賀川市民交流センターtette
（子育て支援センター）
【福島県須賀川市】

図 19：真岡市複合交流拠点施設 monaca
（屋内遊び場）
【栃木県真岡市】

図 20：茨木市文化・子育て複合施設おにクル
（健診待合スペース）
【大阪府茨木市】

図 21：海南 nobinos
（児童図書スペース）
【和歌山県海南市】

（3）　生涯学習・市民活動機能

【目的】

市民が主体となって学び直しや新たな活動に挑戦できる「生涯学習・市民活動の拠点」となることを目指します。

【主な機能】

- 各種講座や体験活動、リスキリング・学び直しの機会の提供
- ものづくりや調理ができるスタジオ・創作スペース
- 市民活動・ボランティア・まちづくり団体の活動拠点・相談窓口
- 発表会・講演会等ができる多目的ホール

【特徴・工夫点】

- 可動式の壁や家具で多様な活動に対応できる可変スペース
- 市民が自ら企画・実践できる場、活動発表や交流の場の設置
- 相談窓口を設け、活動の立ち上げや運営のサポートを行う

生涯学習・市民活動機能のイメージ

図 22：小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。（ものづくりスペース）【新潟県小千谷市】

図 23：茨木市文化・子育て複合施設おにクル（クッキングスペース）【大阪府茨木市】

図 24：ゆいの森あらかわ
（多目的スペース）
【東京都荒川区】

図 25：みんなの森 ぎふメディアコスモス
（市民活動支援センター）
【岐阜県岐阜市】

図 26：茨木市文化・子育て複合施設おにクル
（ホール）平土間形式
【大阪府茨木市】

図 27：みんなの森 ぎふメディアコスモス
（ホール）固定式
【岐阜県岐阜市】

図 28：宇和島市学習交流センターパフィオうわじま
（ホール）可動式
【愛媛県宇和島市】

（4）　カフェ・交流・くつろぎ空間

【目的】

利用者が思い思いに過ごせる「くつろぎと交流の場」を提供し、図書館複合施設全体の「第三の居場所（サードプレイス）」としての魅力を高めます。

【主な機能】

- カフェ・軽食コーナー、飲食可能なオープンスペース
- 自然光や緑を取り入れたリラックス空間、テラスやオープンデッキ

【特徴・工夫点】

- 居心地のよいソファ家具配置、自由な座席選択
- 読書や会話、休憩など多様な過ごし方に対応
- イベント・ワークショップ開催時は交流の場として活用

カフェ・交流・くつろぎ空間のイメージ

図 29：海南 nobinos
（書架スペース）
【和歌山県海南市】

図 30：小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。
（書架スペース）
【新潟県小千谷市】

図 31：米百俵プレイスミライエ長岡
（書架スペース）
【新潟県長岡市】

図 32：那須塩原市図書館みるる
（閲覧コーナー）
【栃木県那須塩原市】

図 33：ミリカローデン那珂川
（カフェ）
【福岡県那珂川市】

図 34：那須塩原市図書館 みるる
（カフェ）
【栃木県那須塩原市】

図 35：真岡市複合交流拠点施 monaca
（多目的スペース）
【栃木県真岡市】

図 36：海南 nobinos_
（多目的室・ボルダリング）
【和歌山県海南市】

（5） その他（安全・環境・利便性）

【目的】

すべての利用者が安心して快適に利用できる施設運営と、持続可能な環境配慮を実現します。

【主な機能】

- 災害時の緊急情報発信設備
- 省エネ・再生可能エネルギーの導入、環境に配慮した設備
- 十分な駐車場、バリアフリー設計

【特徴･工夫点】

- 地域特性に合わせたアクセス・開館時間の工夫
- ICT 活用による利便性向上
- 長期的なコスト縮減や効率的な施設管理
- 持続可能な施設運営を目指した設計

第6章　候補地の選定

図書館複合施設の候補地については、基本方針において以下のとおり整理しています。

- ○ **中心市街地で 4,200 ㎡以上の土地であること。**
- ○ **駐車場用地が不足する場合は、近隣施設との共有や新たな土地の購入等も含めた検討を行うこと。**

以上を踏まえ、図書館複合施設の候補地について、中心市街地における市有地等の比較検討を行いました。

図 37：中心市街地における候補地の位置

1. 中心市街地における市有地の比較

候補地の比較一覧

		① **警察署跡地** （市有地）	② **駅東駐車場** （市有地）	③ **中央公民館** （市有地）	④ **現図書館** （市有地）	⑤ **市庁舎隣接地** （民有地） ※一部市有地含む
面積 （4,200 ㎡以上）		○	×	×	×	◎
敷地面積		約 4,670 ㎡	約 4,041 ㎡	約 3,480 ㎡	約 3,500 ㎡	約 7,200 ㎡
建築可能エリア		約 1,970 ㎡	約 1,341 ㎡	約 780 ㎡	約 800 ㎡	約 3,280 ㎡
接道状況（道路が面しているか）		○ 3 面に道路	◎ 4 面に道路	△ 2 面に道路	△ 2 面に道路	◎ 4 面に道路
防災上の安全性		○	○	△	△	◎
津波浸水		0.3～1.0m	0.3～1.0m	2.0～5.0m	1.0～2.0m	浸水想定外
高潮浸水		無し	無し	～0.5m （避難所指定）	0.5～3.0m	無し
利便性	駅からの距離	○ 380m	○ 145m	△ 680m	△ 610m	○ 470m
	市庁舎からの距離	○ 270m	○ 440m	○ 410m	○ 180m	◎ 85m
	公共交通（バス停）からの距離	◎ 46m	○ 100m	◎ 75m	◎ 20m	○ 100m
総合評価		○	×	×	×	◎
		駐車場が不足するため、駐車場を確保する必要あり。	面積不足 対象外	面積不足 対象外	面積不足 対象外	市庁舎と隣接。駐車場の相互利用が可能。民有地購入の必要あり。

※候補地の比較では、敷地面積 4,200 ㎡未満を×、2 番目に広いものを○、最も広いものを◎と評価。接道状況は 2 面を△、3 面を○、4 面を◎と評価。防災上の安全性は津波浸水が 1.0m を超える場合は△、1.0m 以下は○、浸水想定外は◎と評価。利便性は各施設から 500m以上を△、500m未満 100m以下を○、100m未満を◎と評価。総合評価は×が 1 つでもあれば×、◎が 2 つ以下は○、◎が 3 つ以上を◎と評価。

基本方針では、4,200 ㎡以上と定めていたため②③④は対象外とし、①⑤で比較を行いました。①と⑤では、⑤の方が面積の優位性が高いことが分かります。

2. 候補地の決定

市有地等の比較検討及び総合評価の結果、⑤市庁舎隣接地を図書館複合施設の候補地に決定し、今後、土地の取得を行います。

なお、建築可能エリアなどは候補地選定のために想定したものであり、具体的な施設規模等については、今後策定する基本計画の中で検討します。

図 38：図書館複合施設の候補地と市庁舎との位置関係

第7章　施設の規模と概算事業費

本章では、第 4 章・第 5 章を踏まえ、図書館複合施設の規模、配置の方向性、概算事業費について整理します。施設規模については、将来にわたって持続可能な運営を実現するため、市民の多様な活動を支える十分な空間を確保しつつ、公共施設マネジメントの観点から適正化を図ります。

また、候補地の条件を踏まえた配置や事業費の考え方も示します。

なお、本章の内容は現時点の検討結果であり、今後の基本計画で詳細を検討します。

1. 機能構成と施設規模の整理

本施設に導入する機能は、第 5 章で整理したとおり「図書館機能」「子育て支援機能」「生涯学習・市民活動機能」「カフェ・交流・くつろぎ空間」等で構成します。

図 39：機能構成イメージ

施設全体の延床面積[10]を約 6,250 ㎡と設定し、主な機能・内容は以下のとおりです。なお、詳細は、今後策定する基本計画の中で検討します。

機能区分	主な機能・内容（※詳細は第 5 章参照）	既存面積	想定面積
図書館	豊富な蔵書、多様な閲覧・学習スペース、ICT を活用したセルフ貸出・返却等	約 1,200 ㎡	約 2,500 ㎡
子育て支援	キッズコーナーや親子スペース、屋内遊び場、子育て支援窓口、母子健診、放課後の居場所等	約 850 ㎡	約 1,250 ㎡
生涯学習・市民活動	各種講座や体験活動の機会の提供、創作スペース、市民活動の相談窓口、多目的ホール	約 2,350 ㎡	約 1,250 ㎡
カフェ･交流･くつろぎ空間	カフェ・軽食コーナー、リラックス空間、テラスやオープンデッキ等	－	約 300 ㎡
共用部 ※全体の約 15%	廊下、階段、機械室等	－	約 950 ㎡
合計面積			**約 6,250 ㎡**

[10] 延床面積：建物の各階の床面積をすべて合計した面積。施設の大きさを表す指標の一つ。

2. 建物配置の基本的な方向性

候補地の条件を踏まえ、建物配置の基本的な方向性を検討します。

（1） 計画敷地の概要

候補地は、市庁舎の南側に位置する約 7,200 ㎡の土地で、用途地域は商業地域（建ぺい率 80%、容積率 400%）です。本施設の整備に必要な規模を確保できる条件を備えています。

また、候補地西側は市庁舎と隣接し、市民にとってアクセスしやすい立地であるとともに、JR 日向市駅からも徒歩圏内にあり、公共交通機関を利用した来館も想定されます。

（2） 配置検討の視点

建物配置の検討にあたっては、以下の視点を重視します。

① まちへの開かれ方

図書館複合施設は「ひなたリビング」として、中心市街地に位置するまちづくりの拠点となる施設を目指します。

メインエントランスの位置や中心市街地との接点となる建物正面のあり方を工夫するとともに、市庁舎との連携を意識した配置を検討します。

② 駐車場との関係

候補地内に確保できる駐車場台数と、建物規模・配置との関係を整理します。

候補地の形状を踏まえ、駐車場を建物の東側・北側・南側・南東側のいずれに配置するかによって建物の配置も変わります。

③ 周辺環境への配慮

敷地周辺の道路状況や隣接する建物との関係を踏まえ、日照や圧迫感への配慮、搬入車両の動線確保などを検討します。

④ 屋外空間の確保

テラスや屋外スペースなど、屋内外が一体となった居心地のよい空間を実現するため、建物と屋外空間の配置関係を検討します。

図 40：広域敷地図（周辺駐車場）

※基盤地図情報（国土地理院）を加工して作成

図 41：広域敷地図（周辺道路状況）

※基盤地図情報（国土地理院）を加工して作成

図 42：計画候補地

※基盤地図情報（国土地理院）を加工して作成

3. 概算事業費

他自治体の事例等を参考に、現時点で想定される概算事業費は以下のとおりです。

財源については、国の補助金や起債の計画的な活用を図るとともに、その他寄附金等の確保に努めていきます。

なお、これらは今後策定する基本計画や設計段階での精査、社会経済情勢の変動により変更となる可能性があります。

項目	金額
（1）設計・監理・調査費 （基本設計、実施設計、CM[11]業務等含む）	8.3億円
（2）建設費 （他自治体の事例を参考に ZEB[7]化費用を含めた1㎡あたりの単価を算定） ・ホール部分：@1,220千円／㎡ ・ホール以外部分：@1,030千円／㎡	65.1億円
計　(1)+(2)	73.4億円
（3）用地費、備品什器費、中央公民館解体費	14.6億円
合計　(1)+(2)+(3)	88.0億円

※その他システム関連経費、図書購入費、開館準備費等は今後検討していきます。

[11] CM（コンストラクション・マネジメント）：発注者の補助者・代行者である CMR（コンストラクション・マネージャー）が、技術的な中立性を保ちつつ発注者の側に立って、設計の検討や工事発注方式の検討、工程管理、コスト管理などの各種マネジメント業務の全部又は一部を行うもの。

[7] ZEB（ゼブ）：高い省エネ性能や太陽光発電により、建物の消費エネルギーを実質ゼロにすること。

第8章　事業手法について

1. 主な事業手法の整理

図書館複合施設の整備において、想定される PPP/PFI 手法は次のとおりです。

<table>
<tr><th rowspan="2">方式／方式</th><th rowspan="2">概要</th><th colspan="4">業務区分</th></tr>
<tr><th>資金調達</th><th>設計</th><th>施工</th><th>維持管理・運営</th></tr>
<tr><td>従来型手法</td><td>設計、施工、維持管理・運営を別々に発注する手法。</td><td>市</td><td>民間事業者</td><td>民間事業者</td><td>直営または指定管理</td></tr>
<tr><td>DB 方式
(Design-Build)</td><td>設計、施工を一括して発注する方法。</td><td>市</td><td colspan="2">民間事業者</td><td>直営または指定管理</td></tr>
<tr><td>DBO 方式
(Design-Build -Operate)</td><td>設計、施工、維持管理・運営を一括して発注する方法。</td><td>市</td><td colspan="3">民間事業者</td></tr>
<tr><td>PFI 手法
【BTO 方式】
(Build-transfer -Operate)</td><td>設計、施工、維持管理・運営を一括して発注する方法。資金調達は民間が行う。</td><td colspan="4">民間事業者</td></tr>
</table>

2. PPP/PFI 手法の評価

(1)　PPP 手法の定性評価

①　全体評価

図書館複合施設の整備において、民間の参入可能性やノウハウの活用、他自治体での導入事例の有無などを評価しました。

【評価結果】

- 設計、施工、維持管理・運営については、他自治体でも PPP 手法に含まれる DB 方式、DBO 方式、PFI 手法【BTO 方式】の活用実績があります。一方、DBO 方式や PFI 手法【BTO 方式】など維持管理・運営を含めた一括発注の場合、市内事業者の参入障壁が高くなります（DB 方式については、日向市総合体育館整備事業での導入実績あり）。
- カフェの併設、イベントの企画等については、民間事業者のノウハウや創意工夫を活かせる余地があるが、図書館運営やその他部分での収益性は期待しにくい状況です。
- 他自治体の好事例では、維持管理・運営を含めた DBO 方式や PFI 手法【BTO 方式】といった一括発注の事例は少なく、直営や指定管理者制度[13]による運営が多く採用されています。

[13] 指定管理者制度：市に代わって民間企業や団体などが、公共施設の管理・運営を行う仕組みのこと。

② PFI 手法【BTO 方式】の評価

PPP 手法のうち、PFI 手法【BTO 方式】について、初期投資の比率、設計、施工、維持管理・運営までを含めた一括発注の可否、資金調達の条件、事業期間等の観点から評価を行いました。

【評価結果】

- 建設費など初期投資の割合が全体コストに占める比率が高いため、金利負担増加の影響が大きいと考えられます。
- 設計、建設、維持管理・運営の一括発注により、ライフサイクルコストの縮減やサービスの向上が期待できるものの、他自治体の好事例では一括発注の事例は少なく、直営や指定管理者制度が主流です。
- 補助金制度や地方債の活用での制限がある場合や、民間資金調達コスト、法令等に基づく SPC（特定目的会社）の運営コスト等の負担が大きくなる傾向があります。
- 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI 法）に基づく民間事業者の募集・選定や契約手続き等に一定期間を要するため、従来型手法と比較すると事業スケジュールが長期化する傾向があります。

（2） 定量評価（簡易な検討）

国土交通省の「VFM[14]算定モデル」を用いて、従来型手法と PFI 手法【BTO 方式】の比較検討を行った結果、財政支出削減効果額（VFM）は 2.2%であり、財政的な大きなメリットは小さい結果となりました。

また、DB 方式または DBO 方式については、PFI 手法【BTO 方式】と比較すると、一定の財政支出削減効果額（VFM）が見込まれる結果となっています。

3. 適切な PPP/PFI 手法の選択

上記「2. PPP/PFI 手法の評価」の結果を踏まえ、図書館複合施設の整備における事業手法は以下の方針を選択します。

- 維持管理・運営までを含めた DBO 方式や PFI 手法【BTO 方式】といった一括発注は、従来型手法と比較して、市内事業者の参入障壁が高くなるほか、運営コストの増加や事業スケジュールの長期化が見込まれます。このため、**従来型手法または日向市総合体育館整備事業での導入実績がある DB 方式の 2 つの手法について、今後の基本計画の中で検討を進め、最終的な事業手法を決定します。**
- 従来型手法または DB 方式の決定に際しては、民間事業者の参画意向の確認のため、サウンディング型市場調査などの対話を実施し、引き続き、評価を行います。また、図書館複合施設の維持管理・運営については、直営または指定管理者制度の導入を検討します。

※事業手法の検討や評価結果に関する詳細は「参考資料」の p.72 を参照。

[14] VFM：税金（公金）を投入する際、費用に対して最も価値の高いサービスが得られているかを図る指標。

4. 小さな公民連携（PPP）の導入

図書館複合施設の整備にあたっては、一般的な設計、施工、運営・維持管理における PPP/PFI 手法にとどまらず、より地域に密着した小規模な公民連携を目指します。地域に新たなにぎわいや価値を創出する「小さな公民連携（PPP）」の導入に向け、民間事業者、市民、行政が連携し、共に育て成長する図書館複合施設を実現するため、以下の方向性による「共創」を推進していきます。

（1） 多様な参画主体とのつながり

単なる場所貸し・部屋貸しではなく、地元民間事業者の専門性を活かしたプログラムの提供や創業支援につながる期間限定のスペースの貸出など、利用者、民間事業者など多様な主体が関わりやすい環境の創出を目指します。

（2） 持続可能な運営モデルの構築

図書館複合施設におけるカフェ等の収益施設については、公共性と採算性のバランスを考慮し、安定的な雇用と質の高いサービスが維持できるよう、柔軟な条件設定や支援策の実施を検討します。

（3） 市民と共に成長し続ける施設づくり

図書館複合施設は、完成することがゴールではなく、市民が主体的に活動し、自分の居場所として利用することで、ハード・ソフトの両面で共に成長していく施設を目指します。

そのため、日向ラボ・ラボなどの取り組みを継続しながら、施設の使い方や運営方法について、市民や民間事業者と一緒に検証しながら社会情勢の変化や新たな市民ニーズに対応し、持続的に成長できる図書館複合施設を目指します。

第9章　今後の進め方

1. 基本計画の策定に向けて

本基本構想は、図書館複合施設の具体的な整備に向けた指針です。

今後は、本基本構想で示した基本理念・コンセプトや基本的な機能等を踏まえ、以下の考え方に基づき、基本計画の中で詳細な検討を進めていきます。

（1）　基本構想の具現化とハード・ソフトの一体的な計画の立案

- 施設規模や概算事業費は現時点での想定であり、今後の基本計画の策定段階で精査します。
- 基本計画の策定にあたっては、「ハコ（ハード）」と、サービスや管理運営体制などの「中身（ソフト）」を一体的に捉え、管理運営に関する計画も検討します。

①　事業手法の決定（ハード）

本基本構想において選定した「従来型手法」や「DB 方式」について、詳細な事業費の精査やサウンディング型市場調査による民間事業者の参入意向の確認などを行い、いずれかの事業手法を決定します。

②　持続可能な管理運営体制の検討（ソフト）

図書館運営の公共的な役割を踏まえ、管理運営については行政が主体的に関与できる直営または指定管理者制度等の活用を検討し、市民サービスと採算性のバランスが取れた持続可能な管理運営体制の構築を目指します。

（2）　共創の実践

共創の考え方に基づき、市民や民間事業者等の多様な人々が参加できる施設づくりに取り組みます。

①　日向ラボ・ラボの展開

- 令和7（2025）年度から開始した日向ラボ・ラボで実証実験を行いながら、基本計画の策定や施設の管理運営、事業プログラムに反映させる仕組みを展開します。

②　民間事業者等との連携

- 単なる場所貸しではなく、地域で活動する民間事業者や団体との連携により、地域のにぎわいや価値を創出する「小さな公民連携（PPP）」を推進します。

2. 事業スケジュール

従来型手法またはDB方式のいずれかを採用するかについては、令和8（2026）年度の基本計画策定段階で最終決定し、以下のスケジュールに基づき事業を推進します。

また、各段階において、市民への進捗状況の報告や対話の機会を継続的に設けます。

なお、本スケジュールは現時点での想定であり、社会情勢の変化や各プロセスの進捗状況等により変更となる可能性があります。今後の基本計画の策定を通して、精査・調整を行っていきます。

図43：事業スケジュール

参考資料

参考資料

1. これまでの取り組みの結果詳細（令和 7（2025）年度の取り組み）

（1） 図書館利用者アンケート調査

① 実施目的・概要

令和 7（2025）年 5 月 15 日（木）～令和 8（2026）年 2 月 13 日（金）の期間、日向市立図書館の来場者を対象に、現在の図書館への改善点や日向市図書館複合施設に求めるサービス等に関するアンケート調査を実施し、225 件の回答を得ました。

② 実施結果

A 全体総括

カフェや飲食スペースの設置、及び開放的な読書環境を求める「サービス・機能面」への要望が圧倒的多数を占めるという結果となりました。また、Wi-Fi や電子書籍等の ICT 環境の整備、及び親子で過ごせる屋内遊び場など、多機能な滞在型サービスへの期待が見られました。

B 結果からの提言

・ 世代別ニーズへの対応が鍵：若年層（20 代・30 代）の意見を重視し、利用促進を図る。
・ サービスの充実：カフェスペースや赤ちゃん向けエリアなどを導入し、居心地のよさを追求。
・ 施設改善への対応：明るい施設デザインや動線計画の再考を含めた改革案を検討。

C 結果内訳

年代（件数）	改善点	サービス
10 歳未満、10 代（59）	・ 本を検索する機会をもっと増やしてほしい ・ もっと新しい本を入れてほしい	・ 寝転んで読める場所、こどもが遊べる所がほしい
20 代（11）	・ 本棚を増やしてほしい。通路が狭い ・ 開放的で明るい雰囲気にしてほしい	・ 赤ちゃん向けのイベントを増やしてほしい ・ 飲食スペースがほしい。公園か広場
30 代（47）	・ 幼児向けの本を分かりやすく置いてほしい ・ こどもと一緒に、ゆっくり過ごせるスペースがほしい ・ 学習スペースを充実してほしい ・ 全体的にうす暗く、入りにくい印象	・ 託児スペース、ワーキングスペース ・ こどもにおすすめの絵本を紹介してくれるサービス ・ 開放感のある吹き抜けスペースや中庭、裏庭 ・ 読書通帳制度の導入。上映会やおはなし会などのイベント
40 代（42）	・ 駅の近くにあるといい ・ 本棚の間が狭く、圧迫感を感じる ・ 施設の建て替え	・ カフェコーナー、電子図書 ・ 穏やかな空間で落ち着く。とても使いやすい
50 代（26）	・ 夜に開館する日を増やしてほしい ・ 昼食を食べるスペースが無く不便	・ カフェコーナー、電子図書、 グッズ販売 ・ いろんなワークショップを開いてほしい
60 代～(37)	・ こどもが使いやすいトイレにしてほしい	・ キッズスペースをもう少し使いやすくしてほしい ・ 上映会の利用者がもっと増えるとよい

※年代については混合回答や不明 3 件

（2）　日向ラボ・ラボ

①　実施目的・概要

「日向ラボ・ラボ」とは、対話の手法であるリビングラボ（Living Lab)の「ラボ」と実験・実証実験をあらわすラボラトリー（laboratory)の「ラボ」を組み合わせた名称です。

令和７（2025）年度をリビングラボの実証実験の年と位置づけ、令和６（2024）年度のアンケート調査やワークショップから出された意見を基に「私の図書館」や「新しい図書館に期待する施設・機能」について実証実験を行い、市民からさまざまな意見やアイデアをいただきました。

②　実施結果（主な意見）

A　図書館複合施設に期待する役割

・「図書館は本を借りるだけの場所ではなく、ふらっと立ち寄れて、ゆっくり過ごせる、人と出会えるような場所にしてほしい」という声が多く寄せられました。
・「こどもや若者、高齢者など多世代が過ごせる」「休日に行きたくなる」「子育て中でも安心して利用できる」など、日常的に利用できる施設への期待が多くありました。

B　本・遊び・安心感のある図書館

・第２回日向ラボ・ラボの実証実験では「屋内遊び場」に加え、移動図書館や読み聞かせ、カフェなど親子が「本を読む、遊ぶ、相談する、休む」を同じ場所でできることが評価されました。
・屋内遊び場の遊具については、体を動かす“動”の遊具だけでなく、知育玩具などの“静”の遊具も利用者が多く、“動”と“静”の遊具のバランスが重要であることが分かりました。
・一方で、「静かな場所とにぎやかな場所を分けてほしい」「こどもの年齢によって過ごしやすさが違う」といった声もあり、静かに過ごす場所と元気に遊ぶ場所のゾーニング、年齢に合わせた場所づくりなど安心して使える工夫が求められていることが分かりました。

C　居場所としての図書館

・第３回日向ラボ・ラボの実証実験では、若者は施設を利用するだけでなく、「関わる・参加できる場所」を求めていることが分かりました。
・「勉強できる場所がほしい」「カフェで飲食をしながら友達と集まって話せる場所がほしい」「居心地よく過ごしたい」などの声があり、静かな学習席だけでなく、会話もできて快適に過ごせる居場所が望まれていることが分かりました。
・「そこに行けば何かできる・体験できる」施設づくりが求められていることが分かりました。

D　体験・創造のできる図書館

・これまで図書館を利用したことがない市民に「どうすれば行きたくなる図書館になるか」を尋ねたところ、本を読むだけでなく、ものづくりや創作ができる場所、イベントを体験できる体制など、日常的に体験ができる仕組みのある図書館が求められていることが分かりました。

E　使いやすく、滞在しやすい図書館

・現在の図書館に対して、「ゆっくり過ごせるスペースがほしい」「席が足りない」「本が探しにくい」「開館日や時間が合わない」など、使い勝手に関する要望も多く寄せられました。
・「誰でも利用しやすい」「開放的で入りやすい」という意見もあり、施設に入ってから迷わず、安心して使用できることも求められていることが分かりました。

※各回のチラシを含む詳細は、日向市ホームページに掲載しています。

HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館複合施設

日向ラボ・ラボ通信

HYUGA LABO LABO

2025 7

学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス

VOL.01

「日向ラボ・ラボ」キックオフを開催しました！

令和7年7月5日（土）、日向市役所で新しい図書館複合施設の整備にむけて「日向ラボ・ラボ」のキックオフイベントを開催しました。当日は、111人もの市民の皆さまにご参加いただき、「新しい図書館って、どんな場所になったら素敵だろう？」というテーマのもと、わくわくしながら意見を交わしました。
「日向ラボ・ラボ」は、「みんなのやってみたい！」をカタチにできる新しい市民参加型のプロジェクトです。皆さんの声一つひとつが、未来の図書館の形をつくっていきます。

講演会　あなたの居場所を考えよう。みんなで創る新しい図書館。

ゲストは、筑波大学の吉田右子先生。「あなたの居場所を考えよう。みんなで創る新しい図書館。」をテーマに、北ヨーロッパの事例を交えながら、図書館が“誰にとっても開かれた居場所”となるためのヒントを語っていただきました。特に印象的だったのは、「図書館は“本が並ぶ場所”だけではなく、出会いと学びの場。子どもも大人も、高齢者も、多様な人が集い、思い思いに過ごせる場所を一緒にデザインしていきましょう。」という言葉に、会場の参加者も大きくうなずいていました。

講師：筑波大学
図書館情報メディア系
吉田（よしだ） 右子（ゆうこ）さん

北欧の図書館　デンマークの図書館は壁がない。会話から学びが始まる！

北欧の図書館は音を出してもＯＫ。建物内に壁はほとんどありません。静かなゾーンと賑やかなゾーンが分かれています。

デンマークの図書館は、とても自由でにぎやかな場所です。飲み物や軽食の持ち込みもOK。おしゃべりを楽しんだり、手芸やミシンで服作りをしたり、思い思いの時間を過ごす人たちでいっぱいです。
地域の「出会いと学びの場」として、議員と市民が気軽に意見を交わす場面も見られます。借りられるのは本だけでなく、音楽や映画、ゲームなどさまざま。子どもの宿題のサポートやスマートフォンの使い方を教わる講座も人気です。
誰もが気軽に立ち寄れて、学びや交流を楽しめる―そんな“まちのリビング”のような空間が、デンマークの図書館なのです。

参考資料-図１：日向ラボ・ラボ通信（2025.7 VOL.01-1）

意見交換会　みんなで未来を語る！

続いては、株式会社イツノマ・中川敬文さんがファシリテートする意見交換会。テーマは「図書館が市民のサードプレイスとなるために必要なことは？」です。
参加者の皆さんはグループごとに、「どんな図書館だったらもっと行きたくなる？」「みんなが居心地よく集まるには？」を真剣かつ自由な雰囲気で話し合いました。

意見交換会には、小学生も参加。「ハンバーガー屋さんが入っているといいな」など、楽しい意見が飛び出しました。

西村市長も意見交換会に参加。市民の皆さんからたくさんのお話を伺うことができました。

意見交換会　アイデア１００！

「こんな図書館あったらいいな」「こんなサードプレイスが欲しい」をテーマに参加者全員で意見を出し合い、100個のアイデアが集まりました。
その中でも、多くの票を集めたベスト５が以下のとおりです。ユニークな提案ありがとうございました！

進行：株式会社イツノマ　中川（なかがわ）　敬文（けいぶん）さん

参加者の皆さんも真剣に審査

こんな図書館がほしい！

- ○中高生がイオンよりも行きたいと思える
- ○読書犬がいる
- ○映画が日替わりで見れる
- ○ロビーでコンサートやイベントができる
- ○子どもたちが下校時に宿題ができる

こんな場所にしたい！！

- ○ ちょっとだけ昼寝できる
- ○ ダラダラできる
- ○ アート体験・ワークショップができる
- ○ フリマなどのイベントができる
- ○ 映画が見れる

第２回　日向ラボ・ラボのお知らせ

✓日時　8月8日（金）～10日（日）　10時～16時
✓場所　日向市文化交流センター
✓対象　小学生以下（保護者同伴）
✓内容　移動図書館や読み聞かせ、ボーネルンド社の「移動遊び場」、パルクールおにごっこなど。

入場無料

日向市役所総合政策課
人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向

〒883-8555　日向市本町10番5号
0982-66-1001
sougou@hyugacity.jp

参考資料-図２：日向ラボ・ラボ通信（2025.7 VOL.01-2）

HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館複合施設

日向ラボ・ラボ通信

HYUGA LABO LABO

2025 8

学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス　VOL.02

第2回「日向ラボ・ラボ」を開催。主役はこども達！

令和7年8月8日（金）から10日（日）の3日間、日向市文化交流センターで新しい図書館複合施設の整備にむけて第2回日向ラボ・ラボを開催しました。イベントでは、市民の皆さんから要望の多かった「こどもの遊び場」や「子育て支援機能」、「体験プログラム」や「カフェ」を実際に体験できるプログラムを用意しました。

3日間で1,686人の方に来場いただき、会場内はこども達の笑顔や元気な笑い声が溢れていました。アンケートでは、次回のイベント開催や屋内遊び場の整備を望む意見が多くみられました。

移動遊び場　学びのタネを育てよう。みんなで育む未来のこども。

（株）ボーネルンド社の「移動遊び場」では、「エアトラック」「サイバートラック」といった「動」の遊具と、「マグフォーマー」や「イマジネーション・プレイグランド」など「静」の遊具を配置しました。こども達は、こどもの遊びを手助けする「プレイリーダー」と一緒に、元気にジャンプしたり、走り回ったり思い切り体を動かしていました。また、こども同士ですぐに仲良くなり、お城や橋を一緒に作って遊ぶ様子が見られました。

「パラコードキーホルダー作り」

パルクール　「走る」「跳ねる」「乗り越える」「掴まる」「バランスを取る」

動作の基本である５大基礎能力を伸ばすといわれる「パルクール」。イベントでは、「パルクール体験会」のほかに、１対１の「20秒間鬼ごっこ（パルオニ）」を実施。宮崎県内では初の開催となりました。

当日は、こども同士、こどもと保護者、お父さん対お母さんなど白熱した戦いが繰り広げられました。何度もパルオニに参加したこども達は、どんどん上達し、頭を使い、す早く動けるようになりました。

参考資料-図３：日向ラボ・ラボ通信（2025.8 VOL.02-1）

こどもイベント

「絵本のよみきかせ」「歌って踊ろう」は乳幼児に大人気！

文化交流センターのロビーでは、図書館ボランティアによる「絵本のよみきかせ」や保育士による「歌って遊ぼう」、保健師による「子育て相談」を行いました。「紙コップで遊ぼう」のコーナーでは自分の背丈よりも高いタワーや一人だけの隠れ家など、自由な発想で遊んでいました。

● 絵本のよみきかせ

保育士と
● 歌って遊ぼう

● 子育て相談

● 紙コップで遊ぼう

紙コップコーナーも大人気。
みんなで協力して家づくり。

カフェコーナー

カフェやパンの販売

「図書館に欲しい機能」として要望の多い「カフェ」の実証実験を行うため、市内から3店舗が出店。福祉施設のパンの販売等もあり、大盛況でした！

ひだまり図書館号

本との出会い

来場者アンケート結果

図書館に欲しい機能

- ○ 屋内遊び場　250人
- ○ カフェ　165人
- ○ 屋外遊び場　113人
- ○ 体験コーナー　106人
- ○ 子育て支援　82人

来場者アンケート結果

屋内の遊び場について

- ○ 図書館と一緒につくってほしい　217人
- ○ 図書館と別につくってほしい　60人
- ○ 特に必要なし　2人
- ○ わからない　27人

第3回　日向ラボ・ラボのお知らせ

✓日時　9月27日（土）　13時～17時
✓場所　日向市役所1階　市民ホール
✓対象　中学生・高校生（定員35人）
✓内容　「行きたくなるカフェづくり」
カフェで使用する飲み物やエプロン、コースター等の製作のほか、空間デザインや動画作成等を体験します。

要予約

日向市役所総合政策課
人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向

〒883-8555　日向市本町10番5号
0982-66-1001
sougou@hyugacity.jp

参考資料-図４：日向ラボ・ラボ通信（2025.8 VOL.02-2）

HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館複合施設

日向ラボ・ラボ通信

HYUGA LABO LABO

2025 9

学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス　VOL.03

第3回「日向ラボ・ラボ」を開催。今回の主役は中・高・大学生！

令和7年９月27日（土）に、新しい図書館複合施設の整備に向けた第３回日向ラボ・ラボを日向市役所1階市民ホールで開催しました。イベントでは、市民の皆さんから要望の多い「ものづくりを実際に体験できるワークショップ」を開催しました。

体験ワークショップ

創造の芽を育てよう。新しい学びの発見。

テーマ「新しい図書館のカフェづくり」

ひょっとcoffee

市内の高校生を中心に集まった参加者が５班に分かれ、「新しい図書館のカフェづくり」をテーマにカフェの名前を考えました。

新しいカフェの名前は、**「ひょっとcoffee」**。

その後、プロの講師のサポートを受けながら、カフェで使用するブランドロゴやエプロン、へべすを使ったジュースの製作、カフェ空間のデザインや動画編集などを体験しました。

A ブランドづくり

カフェのブランドづくりを体験！
デジタル機材でグッズ制作！

「ひょっとCOFFE」のグッズ製作
3Dプリンターやカッティングマシン、レーザー加工機を使って色んなグッズを製作しました。

参加者の声

- 色んな人と話せたし、自分でもできることがあると分かった。色んなことができて良かった。
- 工作が好きなので、すごく楽しく貴重な体験になりました。

B メニュー開発

日向らしい「へべす」を使った、
カフェメニューを開発！

新メニュー「へべすオレンモン」
へべす、オレンジジュース、シナモンをミックス。名前は「俺のもの」にかけています。

参加者の声

- 自分の意見を言うのが苦手で不安だったけど、こう言ったら伝わるかなとか考えながら克服していけるようになってよかったです。
- 人生で体験できないようなことを経験できて、自分の知らないことも話すことができて、とても楽しかった。

参考資料-図５：日向ラボ・ラボ通信（2025.9 VOL.03-1）

C 空間デザイン

理想のカフェ空間をデザイン、CGパースで表現！

手書きのパース図をCGで表現

パース、製図の書き方を学びながら手書きで作成。手書きの図面をCGで表現しました。

参加者の声

- 苦手意識のある作業だったけど、楽しく学んで取り組めました。
- 初めての経験でしたが、わかりやすく教えてもらって上手くできました。とても、楽しかったです！

D PR・発信

動画・映像制作を通して、理想のカフェを発信！

今日の様子を動画で発信

各班の作業内容を機材を使って撮影。撮った動画を1分にまとめました。

参加者の声

- 自分の興味があるものを隅から隅まで教えていただけました。
- １つの動画を作成するのに、こんなに気力や忍耐力がいるんだなという実感と、映すアングルやカットなど、考えることが多く、新しい気づきをたくさん得ることができました！

E 衣装づくり

みんなが思わずつけたくなるエプロンをデザイン・制作！

一枚の布からエプロンづくり

アイデアを出し合い、プリーツエプロンを制作しました。

参加者の声

- 新しいことも学べてとても楽しかったです。先輩方と協力して作業ができ、とても満足な時間でした。
- エプロンを一から作るのは大変だったけど、みんなと協力して可愛いエプロンを作ることが出来てよかったです。
- 今まで体験できなかったことをたくさん出来て、とても嬉しかったです。

期待すること

参加者アンケート結果

- ○ カフェや軽食が楽しめる
- ○ 友達と集まって話せる場所
- ○ 居心地の良い場所
- ○ 勉強できるスペース

体験したいこと

参加者アンケート結果

- ○ 料理・お菓子づくり
- ○ 3Dプリンターなどのモノづくり
- ○ 動画・アニメーション制作
- ○ 楽器・音楽制作

第４回　日向ラボ・ラボのお知らせ

- ✓ 日 時　11月29日（土）　13時30分～16時00分
- ✓ 場 所　日向市役所1階　市民ホール
- ✓ 内 容

第1部　青山鉄兵さんの講演会（約1時間）
※ 対象：どなたでも参加できます。

第2部　ワークショップ「若者が行きたくなる図書館」
※ 対象：中学生以上～29歳まで　**要申込**

日向市役所 総合政策課

人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向

〒883-8555　日向市本町10番5号
0982-66-1001
sougou@hyugacity.jp

参考資料-図６：日向ラボ・ラボ通信（2025.9 VOL.03-2）

HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館

日向ラボ・ラボ通信

HYUGA LABO LABO

2025 11

学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス　VOL.04

第４回「日向ラボ・ラボ」を開催しました。
今回のテーマ「子ども・若者×居場所×図書館」

令和7年11月29日㈯に、新しい図書館複合施設の整備に向けた第4回日向ラボ・ラボを日向市役所1階市民ホールで開催しました。若者の求める「居場所」や居心地の良い図書館を実現するために必要な「モノ」「コト」「ヒト」について皆さんで考え、いろんな意見が出されました。

第１部　講演　13:30〜14:20

子ども・若者×居場所×図書館

参加者 50人

講師　文教大学 人間科学部 准教授　青山（あおやま）　鉄兵（てっぺい）さん

図書館が担う「居場所」としての役割

- 図書館は「まちのリビング」。
  誰もが使えるユニバーサル型の居場所
- 何もしなくてもよい、無料で使える、
  居心地の良い空間
- ワーカー（支援者）の不在、個人利用中心
- 多世代型で、子ども・若者に特化していない
- 地域や人をつなぐ機能も期待される

居場所ないな〜

自由な居場所がいい！

誰でも館？？

参考資料-図７：日向ラボ・ラボ通信（2025.11 VOL.04-1）

参考資料-図8：日向ラボ・ラボ通信（2025.11 VOL.04-2）

HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館

日向ラボ・ラボ通信

HYUGA LABO LABO

2025 12

学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス　VOL.05

第５回「日向ラボ・ラボ」を開催。今回のテーマは「共創」。

令和7年12月14日(日)に、新しい図書館複合施設の整備に向けた第5回日向ラボ・ラボを日向市役所1階市民ホールで開催しました。令和6年9月に開館した新潟県小千谷市の図書館複合施設の事例を学び、オンラインでゲストスピーカーの話を聞き、新しい図書館像について意見を交わしました。

共創とは？

地域をより良くするため、行政や市民、企業等が協力し、対話を重ねながら、共に新しい社会的価値やアイデアを生み出すことを意味します。日向市では、まちづくりの共有の指針となる「第３次日向市総合計画」の中でも、まちの将来像に「共創のまち」を掲げています。

人と自然が響き合い、にぎわいあふれる
共創のまち日向

小千谷市の事例紹介

アカデミック・リソース・ガイド㈱の進行で、「公共施設づくりのステップ」の説明と「小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。」の事例を紹介しました。
その後、開館記録動画「ホントカ。イロイロ」を会場内で上映し、小千谷市の取組について学びました。

オンライントークセッション

施設の整備に携わった皆様で、トークセッションを行いました。土田さんからは「市民との共創するために話し合いのハードルを下げて繰り返し開催した。」町田さんからは「特徴的な”動く書架”は初めは市民から問い合わせも多かったが次第に図書館の上手な使い方を学んでくれるようになった。」星野さんからは「初期から関わっており、毎回楽しく話し合いの場にいれたことが良かった」と、共創の取組への想いを語っていただきました。

小千谷市職員 **土田 昌史**さん　小千谷市職員 **町田 祥子**さん　小千谷市民 **星野 哲也**さん

＼今回、トークセッションを行ったゲストスピーカーの方！／

参考資料-図９：日向ラボ・ラボ通信（2025.12 VOL.05-1）

参加者 14人

今日の感想

- 図書館でDJライブや様々なイベントが開催されていることに驚きました。
- 動く本棚などで自由な空間に変化できるところがすごい。
- 市民が活躍できる場所にすることが大事だと感じました。

どんな"居場所"にしたいか

- 気軽に立ち寄れて、まったりできる安心感のある空間。
- 子どもや若者、高齢者など幅広い世代が交流し、チャレンジや学びができる場所。
- 「今日来てよかった」と感じることができる自由で居心地の良い居場所。
- 一人でも、誰かと来ても過ごせる、多様なニーズに応えられる柔軟な空間。

新しい施設にどう関わりたいか

- わくわくするイベントの企画や本と出会うイベントに関わってみたい。
- 情報発信の場として活用していきたい。
- 読書やイベントを通じて新しいことを知ってみたい。

施設整備までの望ましい市民の関わり方

第1位　アイデア、やりたいことが実証実験できる場
第2位　ワークショップ、意見交換会
第3位　アンケートやヒアリングの実施

共創の取り組みで施設に期待すること

第1位　子どもや若者が学んだり、ものづくりを楽しめる場
第2位　色々な人が集まって知り合えたり、仲良くなれる場所
第3位　高齢者や体の不自由な人も使いやすい環境

会場もクリスマス仕様に飾り付け

第7回　日向ラボ・ラボのお知らせ

✓ 日 時　2月14日（土）　13時30分～14時、14時～15時30分
✓ 場 所　日向市立図書館
✓ 内 容
図書館で使用する本箱（ほんばこ）に
オリジナルのデザインを刻印するワークショップです。
※ 要申込

人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向

日向市役所 総合政策課
〒883-8555　日向市本町10番5号
☎0982-66-1001　sougou@hyugacity.jp

参考資料-図 10：日向ラボ・ラボ通信（2025.12 VOL.05-2）

HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館

日向ラボ・ラボ通信

HYUGA LABO LABO

2026 1

学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス　VOL.06

第６回「日向ラボ・ラボ」を開催。今回のテーマは「まち×ひと×図書館」。

令和8年1月29日(土)に第6回日向ラボ・ラボを日向市役所1階市民ホールで開催しました。中高生や大学生、社会人といった年齢や立場を超えて、計24人の方に参加いただきました。

今回の趣旨は「新しい図書館複合施設が完成するまでの間に出来ること」を実証実験カレンダーにまとめること。まずは新しい図書館複合施設の基本理念「学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス」に沿って

４つのチームに分かれ、「自分が学んでみたいこと」と「自分が教えてみたいこと」を出し合い、重なるものをマッチングしました。中川さんの進行で、みんなで楽しくアイデアを出し合いました。

図書館複合施設アドバイザー
株式会社 イツノマ 代表取締役
中川（なかがわ）　敬文（けいぶん）さん

学んでみたいこと

- 編み物
- 動画制作、編集
- 美味しいコーヒーの淹れ方
- 酒のつまみの作り方
- 大人のための数学

教えてみたいこと

- 古文書の読み方
- 文鳥の飼い方
- アルゼンチンの暮らし
- 編み物
- きれいな字を書く方法
- 布絵本のつくり方

「学んでみたいこと」「教えてみたいこと」アイデア出し

「学んでみたいこと」では、「編み物」「動画制作」や「酒のつまみの作り方」「大人のための数学」など斬新なアイデアが。
「教えてみたいこと」では、「古文書の読み方」「アルゼンチンの暮らし方」など参加者の人生経験を生かした提案を沢山いただきました！！

参考資料-図 11：日向ラボ・ラボ通信（2026.1 VOL.06-1）

「学んでみたいこと」「教えてみたいこと」をマッチング

各チームは15個のマッチングを目標にし、限られた時間の中でも素早く組み合わせを作ることができました。
その後、チームごとに成果を発表し、マッチングできなかった「学んでみたい」「教えてみたい」の内容は、チームの枠を越えて新たにマッチングを進めました。

新しい図書館ができるまでの5年間のカレンダーづくり

施設完成までの建設プロセスに合わせ、各チームが指定された年と月にマッチするイベントアイデアを提案。他のチームのアイデアを見ながら「もっと早い時期のほうがよいかも」「順番を入れ替えたら？」といった意見も。
全員で新しい図書館複合施設ができるまでのイメージを共有しながら全60回分(月1回×12か月×5年の実証実験カレンダーを作り上げました。

やってほしい企画

- 「編み物」ブームなので学んでみたい！
- 写真の撮り方、絵の描き方など、日常的に使えて幅広い年齢層で交流できるものがやってみたい

今日の感想

- 色んな人の学びの場になってほしい。
- いろんなことを教えられる人が市内にたくさんいることを知った。
- 今回、図書館を「自分たちでつくっていくこと」が感じることができました。

本日初めて会った人たちと短い時間に集中して作業し、カレンダーまで作成できたのは素晴らしい！

図書館複合施設アドバイザー
宮崎大学 地域資源創成学部 教授
桑野（くわの） 斉（ひとし） さん

今回の実証実験カレンダーの提案の一部は、令和８年度以降、図書館や今後の日向ラボ・ラボのイベントとして取り組んでいく予定です。

日向市役所 総合政策課
人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向
〒883-8555 日向市本町10番5号
0982-66-1001
sougou@hyugacity.jp

参考資料-図 12：日向ラボ・ラボ通信（2026.1 VOL.06-1）

HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館

日向ラボ・ラボ通信

HYUGA LABO LABO

2026 2

学びの種をまき　創造の芽を育て　希望の実を結ぶ　市民のサードプレイス　VOL.07

第7回「日向ラボ・ラボ」のテーマは「にぎやか×笑顔×図書館」

今年度の最終回となる第7回日向ラボ・ラボ。令和7年2月14日(土)に市立図書館で“本を並べる箱”こと本箱（ほんばこ）をつくりました。会場と材料の都合から、先着申し込み制で、計39人の皆さんに参加いただきました！

かなづちの音や作業中の話し声、ざわざわした音が本を読みたい人や勉強したい人にどう伝わるか、アンケートを取りながら皆さんの求める「にぎやかな図書館」を感じてもらう実証実験を行いました。

第７回日向ラボ・ラボの進め方

どんな本箱が完成したかな？

1．読み聞かせ

2．本箱組み立て

3．レーザー刻印

＼ 完成 ／

2回実施!!

1．読み聞かせ（図書館ボランティア「友の会」)の皆さん）

初めに、思いやり・やさしさの大切さを伝えてくれる人気の絵本『どうぞのいす』の読み聞かせ。今回つくる本箱が、どうぞのいすのようにみんなの心をつなぎ、読書の楽しさや思いやりの気持ちを広げる場所になりますように。

2．本箱組み立て（５Gの皆さん）

図書館１階の児童コーナーの中で、３つのテーブルに分かれて作業。かなづちやくぎ、木工用ボンドをつかって本箱の組み立てを行いました。

講師がサポートしながら、時には代わりに作ったりしながら、みんなでわいわい本箱の組み立てを行いました！

かなづちの音がすることで、図書館利用者も声を出して雑談できる雰囲気ができました。

講師：左から体験型シェア工房ツクレタさん、図書館職員の野上さん、日南市の大工さん３人、自ら名付けた５G（ファイブ爺）!!

3．レーザー刻印（シェア工房ツクレタさん）

参加者が自由に好きな文字やイラストを紙に描き、それをもとに自分が組み立てた本箱にレーザーで刻印をして完成！

利用者の声

アンケート回答者24人のうち、7割の人が「音が全く気にならない」と回答した方が17人（約70%)でした。

＼ 完成 ／

デザインは見に来てからのお楽しみ

完成した本箱は、図書館内で実際に活用しています。どんなデザインがあるか探しにきてね！

参考資料-図 13：日向ラボ・ラボ通信（2026.2 VOL.07-1）

新しい図書館複合施設が完成する前から、できることに取り組みます

これまで実施した日向ラボ・ラボや市民アンケートで、市民の方から多くの意見を寄せていただきました。その中でも、特に多かった「図書館が静かすぎて入りにくい」「飲食ができなくて不便」「開館時間を長くしてほしい」「利用したいときに開いていない」といった声に対応するため、図書館では「できることから順次取り組む、利用しやすい環境づくり」に取り組んでいます。

チャレンジ 1　静かすぎない図書館、飲食OKの図書館の実証実験

「静かすぎて入りにくい」「子どもを連れて行きにくい」「飲食ができなくて不便」といった声を踏まえ、静かに過ごす場所と会話できる場所が共存する図書館を目指すため、1月20日から館内での会話や飲食の実証実験を実施。1～3月に来館者アンケートを行い、検討を重ねた上で、4月から本格実施します。

1階では、おしゃべりを楽しむことができます

2階 多目的室では、お食事ができます

おやつは館内どこでもOKです

チャレンジ 2　図書館の開館時間延長、休館日見直し

令和８年４月から図書館の開館時間の延長と休館日の見直しを行う予定です。
これまで、開館時間や休館日により図書館を利用しづらかった方へ仕事帰りや休日でも利用しやすい図書館づくりを目指していきます。

これまでの開館時間

火～金　１８時３０分まで
土 日 祝　１７時まで

これまでの休館日(赤枠)

・毎週月曜日が休館
・毎月初日が休館

4月からの開館時間

時間が長くなります

全開館日　１９時まで

4月からの休館日(赤枠)

開館日が増えます

・月曜日が祝日の場合は翌平日を休館
・毎月初日が月曜の場合は休館

今年度の開催状況

延べ1,953人参加!!

市民の皆さんと共創して取り組む日向ラボ・ラボでは、「市民の皆さんがやってみたいこと」や「新しい図書館複合施設の使い方」を実証実験していく場として取り組んできました。来年度以降も引き続き取り組んでいきますのでお楽しみに

- 第1回　R7.7/5開催　「新しい図書館ってどんな場所になったら素敵だろう？」を話そう　参加者／111人
- 第2回　R7.8/8～10開催　移動図書館とこどもの遊び場をやってみよう　参加者／1,686人
- 第3回　R7.9/27開催　ものづくり体験ワークショップをやってみよう　参加者／29人
- 第4回　R7.11/29開催　子ども・若者の居場所づくりについて考えてみよう　参加者／50人
- 第5回　R7.12/14開催　新潟県小千谷市の新しい図書館のことを聞いてみよう　参加者／14人
- 第6回　R8.1/24開催　新しい図書館の完成までにやってみたいことを考えてみよう　参加者／24人
- 第7回　R8.2/14開催　図書館の本箱に自分のデザインを刻印してみよう　参加者／39人

日向市役所 総合政策課
人と自然が響き合い、にぎわいあふれる共創のまち日向

〒883-8555　日向市本町10番5号
0982-66-1001
sougou@hyugacity.jp

参考資料-図 14：日向ラボ・ラボ通信（2026.2 VOL.07-1）

（1）　新しい図書館を語る会

①　実施目的・概要

市内の多様な団体や関係者を対象に、図書館複合施設に期待することや要望について意見交換を行うため「新しい図書館を語る会」を開催し、新しい図書館の機能や建物、立地、利用方法などについて、各団体の立場から幅広い意見やアイデアを出していただきました。

項目	概要
参加団体	日向商工会議所青年部、商店街・商店会（ひゅうが新町商店街振興組合、本町商店会、原町商店会）、宮崎県立日向高等学校フロンティア科１年生、日向市ＰＴＡ協議会、日向市文化連盟、保育所・幼稚園関係者、中央公民館利用団体（陶芸クラブ、シャルウィダンス、ヴァイオリン教室、日向木挽歌大会実行委員会、日向混成合唱団）、障がい者団体（日向地区腎臓病患者友の会、日向市肢体不自由者父母の会、日向聴覚障害者協会）、音訳・点訳ひゅうが虹の会、日向市立図書館ボランティア「友の会」
開催時期	令和7（2025）年7月～令和8（2026）年1月

参考資料-図 15：新しい図書館を語る会の様子

②　実施結果（主な意見）

A　施設の機能・空間

「会議やミーティングができる場所」「コミュニティの場としての機能」「オープンなスペース」など、具体的な機能を希望する声がありました。また、こどもや若者など多世代が集まり、学習や交流ができる居心地のよい空間づくりを求める意見もありました。

B　図書館のサービス・運営

「こどもにゆったりと読み聞かせができるスペースがほしい」「読書がしやすい環境にしてもらいたい」「にぎわいのある図書館がよい」などの声がありました。また、現在の図書館の開館時間や休館日に関する意見も寄せられました。

C　施設のターゲット

こども・若者をターゲットとするだけでなく、多世代や市外の利用者にも目を向けてほしいという意見がありました。

D　連携・波及効果

中心市街地への波及効果や、市役所・学校・学校図書館との連携を期待する意見がありました。

E　立地・駐車場

十分な駐車台数の確保や、施設へのアクセスの利便性についての意見がありました。

（2）　アドバイザリー会議

①　実施目的・概要

図書館複合施設の基本方針や具体的な方向性を示す「基本構想」の策定に向けた助言・提言を受けることを目的に、令和 7（2025）年度に専門家等で構成する「アドバイザリー会議」を設置し、全 4 回の開催を通し、専門的知見を踏まえた基本構想の策定につなげてきました。

②　アドバイザー

氏名	所属
桑野 斉	宮崎大学 地域資源創成学部 教授
中川 敬文	株式会社イツノマ 代表取締役
青山 鉄兵	文教大学 人間科学部 准教授

③　各回の開催概要

第1回	日時	令和7（2025）年6月26日（木） 10:00～
	会場	日向市庁舎401会議室
	議事	・これまでの経緯について ・基本方針について ・検討体制について ・令和7（2025）年度の取り組み内容について ・図書館複合施設整備プロジェクト「日向ラボ・ラボ」について
第2回	日時	令和7（2025）年9月24日(水） 10:00～
	会場	日向市庁舎301会議室
	議事	・基本理念・ビジョン・コンセプトについて ・子育て支援機能について
第3回	日時	令和7（2025）年11月28日(金） 16:00～
	会場	日向市庁舎防災対策本部室
	議事	・ビジョン・コンセプトについて ・こども・若者の居場所づくりについて
第4回	日時	令和8（2026）年1月21日(水） 16:00～
	会場	日向市庁舎防災対策本部室
	議事	・次年度の取り組みについて

④　各回の主な意見（抜粋）

A　第 1 回アドバイザリー会議

- 市民協働、共創の意識や先進事例を踏まえて丁寧に進めている点を評価する。
- 10～20 年後の社会変化を見据えた対応ができるよう、柔軟な対応ができる施設計画が必要。
- 市民からのさまざまな期待がある中で、図書館本来の役割が後回しにならないよう配慮が重要。
- 都市部と地方では、書籍や体験、居場所の格差が大きい。それが可能となる場所が重要。
- 部活動の地域移行が進む中、中高生が放課後や土日に過ごす場所として図書館複合施設を活用してはどうか。

B　第 2 回アドバイザリー会議

- 利用対象を「市内」だけでなく「関係人口」に広げるべきではないか。
- 市民が直感的にワクワクする具体的なビジョンが必要。
- コンセプトはシンプルなものにし、柔軟な運用をしていくことが重要。
- 単なる施設の引っ越しではなく、50 年後も利用される施設となるための視点を持ってほしい。
- こどもの遊び場は有料化せず、より開放的で無料の場としたほうがよい。

C　第 3 回アドバイザリー会議

- 施設ができることでの市民一人ひとりの成果のイメージ、具体的な未来の姿を提案してはどうか。
- 基本理念を軸として、実際の活動やアクションについて考えていくべき。
- “図書館”と呼ぶことで若者は行きづらくなるため、新しい施設の名称を検討してはどうか。
- 居場所づくりに実際に携わっている現場の意見をヒアリングしてはどうか。
- 若者の居場所づくりを学ぶためユースセンターの取り組みを視察してはどうか。
- 施設の機能だけでなく、それを運用していく人材が重要。
- 中高生が自分たちで意見を出して実行してもらえる場があるとよいのではないか。

D　第 4 回アドバイザリー会議

- 図書館の飲食解禁について、大学図書館でも全面禁止ではなく、ゾーニングによって飲食を OK とする運用が広がっている。
- 複合施設は機能ごとに所管課が分かれルールがバラバラになりがちなため、館内での飲食可否など共通ルールの設計も検討するとよいのでは。
- 日向ラボ・ラボや図書館での実証実験を後押しするように、座席や飲み物の種類がたくさんあるといった利用体験を高める取り組みが有効ではないか。
- 高校生によるショート動画、打ち合わせのポッドキャスト、会議のインスタライブ配信など、露骨なくらい情報発信していく姿勢が必要。

- 下北沢での事例のように、整備までの期間も空き地イベントを実施し、人が集まる様子をライブ発信するなどしてはどうか。
- 公民館で地域とつながりながら講座を面白くつくり直し、図書館に複合する機能も含めて活性化してはどうか。
- 就職系リテラシーだけではなく、コミュニティや家庭、公共性（シチズンシップ）を学ぶ機会が不足しているため、年齢を問わずに学べる社会的・地域的リテラシーの実証も可能ではないか。
- まちに愛着のある高校生は地域との接点経験がある傾向にある。小中学生の段階から機会をつくるべきではないか。
- 複合施設でクリエイターと話せる登録制度、マッチングの仕組みもあるとよいのでは。

参考資料-図 16：アドバイザリー会議の様子

(3)　サウンディング型市場調査

①　調査の目的

民間事業者との対話を通して、図書館複合施設の導入機能や小さな公民連携（PPP）に関するアイデア、現状の地域における民間事業者の活動実態等を把握することで、事業の可能性と実現性を検討し、今後の図書館複合施設整備の方針決定等に活かすことを目的として実施しました。

「小さな公民連携（PPP）」とは

大規模なインフラ整備や事業運営における PPP 手法（DBO、PFI 等）にとどまらず、より身近で地域に密着した小規模な事業として、自治体（公）と民間事業者や市民（民）が協力し合い地域に新たなにぎわいや価値を創出することを目指す取り組み。

②　調査の経過

内　容	日　程	備考
調査実施要領の公表	令和 7（2025）年　9 月 15 日（月・祝）	
参加申込期限	令和 7（2025）年 10 月 15 日（水）	
「本調査」の実施	令和 7（2025）年 10 月 28 日（火） ～11 月 10 日（月）	参加 9 者

③　調査の内容

A　本事業や図書館複合施設への関心やアイデア

- 地元企業でチーム（JV）を組むかたちや、大手企業との連携など、何らかのかたちで施設の建設や運営に携わりたい。
- チャレンジしやすいポップアップのようなハコ（空間）を用意し、その後の開業支援につなげるなど、事業者が挑戦できる仕組みを取り入れられるとよい。
- 自分たちの専門性を活かし市民に「教える」ことや「相談に乗る」ことで、施設に関わることができるのではないか。
- デザイン、料理、まちづくり等、専門的な図書を充実させ、その分野に詳しいプロが情報の案内役となれるとよいのではないか。
- キッチンカーで購入したものを飲食できるデッキや、雨天でもマルシェや音楽イベントができるよう、廊下や各スペースを一体的に使えるワンフロア構成が望ましい。
- 動画制作ができる PC やモニター環境の整備、コワーキング機能としての高速 Wi-Fi の完備。
- 静かな図書館だけでなく、インドアとアウトドアのつながりを生み出せる機能。

B　地域における事業展開の実態

- 地域性として新しいものには飛びつくが、飽きも早いことがあるため、常に変化のある工夫が必要。
- 学生が勉強に利用できる場所が不足しており、そのような場が必要とされている。
- 地域内でお金が回っている状況を変えるため、外部から人を呼びこめるコンテンツを地域でつくっていく必要がある。

C　懸念事項等

- 飲食事業は利益率が低いため、安定的な雇用と運営を維持するためには、家賃設定の配慮や運営費への補助など、行政側の能動的なサポートが必要。
- 公共施設のカフェには安価なメニューが求められがちだが、それでは経営が厳しくなる。
- 大手チェーン店を入れるだけでは地域の活性化にならないため、コンセプトに基づき評価してほしい。
- 開館までの期間（6～7 年）が長く、その間にデジタル技術や社会情勢が大きく変化する可能性があるため、完成形を固定せず、後から用途変更などが可能な柔軟性を持たせる必要があるのではないか。
- PFI で建設する場合、建設費が高騰しているため、PFI の手続期間中にさらにコストが上がるリスクがある。
- 地元企業が参加しやすいよう、入札参加資格や発注方式を検討してほしい。
- 運営の要素を重視し、施設の設計段階から運営事業者の意見を取り入れるべき。
- その他、本事業に関する自由提案・自由意見。
- 移住者がどのように生計を立てられるかイメージできるような情報発信を施設が担っていけるとよいのではないか。
- フリーランス等の地域での多様な働き方の可視化や、移住者と地元住民が混ざり合うコミュニティ形成の場・機会を創出していけるとよいのではないか。

D　総括

今回の調査では、飲食・物販、クリエイティブ、建設など多様な分野の民間事業者から、図書館複合施設整備に対する高い関心と、地域活性化への貢献意欲が示されました。

事業への参画については、地元事業者として JV(共同企業体)の結成や、「小さな公民連携(PPP)」として部分的な機能（カフェ、ポップアップ、講座運営等）を担うかたちであれば、積極的に参画したいという意向が多く確認されました。

導入機能に関しては、単なる場所貸しではなく、事業者の専門性を活かした「学び・体験プログラム」の提供や、創業支援につながる「ポップアップ」機能など、ソフト面を重視した提案が寄せられました。一方で、カフェ等の運営については、持続可能性と雇用確保の観点から、家賃減免や運営費補助などの行政支援を求める意見がありました。

また、開館までの期間の長さや社会変化の速さを懸念し、施設用途を固定せず、将来の変化に対応できる「可変性（余白）」を持たせることや、建設費高騰に対応した柔軟な事業スキームの構築が必要であることが把握できました。

2. 関連する公共施設の状況

（1） 日向市立図書館

- 平成 8（1996）年に旧日向保健所（昭和 40（1965）年建築）を改築した建物で、築 60 年以上を経過し、平成 24（2012）年の改修後も建物・設備の老朽化が進行しています。
- 閲覧・学習・親子滞在・イベント等のスペースが全体的に不足し、用途別の区分けも難しい状況です。
- 蔵書約 18 万冊（開架 10 万冊）ですが、閉架は職員への依頼が必要で利用しづらく、郷土資料も閲覧が限定的となっています。
- 登録者・利用者は減少傾向で、特に 13～29 歳の利用が少なくなっています。コロナ後は回復傾向にあります。
- 学習席不足や閉館時間の早さが、夕方以降の若者ニーズに十分応えられない要因となっています。
- バリアフリー（エレベーター・通路・多目的トイレ等）や職員の事務スペース、書庫スペース、駐車場、専用会場が不足しています。
- 申込制廃止、親子部屋開放、屋外休憩等の運用面の見直しは行っていますが、地区公民館図書室や学校図書館との連携が課題です。

【利用状況等】

建築年月日	昭和 40（1965）年 3 月 1 日
延床面積	1,202.17 ㎡
構造	鉄筋コンクリート造 2 階建て
利用者数	119,760 人
蔵書数（うち開架数）	179,919 冊（103,434 冊）
貸出冊数	個人 157,358 冊、団体 35,778 冊
登録者数	6,380 人

参考資料-図 17：日向市立図書館の外観

（2）　日向市民健康管理センター

- 旧館は昭和 57（1982）年に建築で、新館は平成 4（1992）年に建築されています。
- 7 ヶ月、1 歳半、2 歳半、3 歳半の集団健診、健診事後教室、ことばの相談、療育相談で月 8～15 日程度を使用しています。
- 令和 7（2025）年 7 月より、すべての妊産婦・保護者・こどもの相談窓口等の 5 つの柱を機能とする「日向市こども家庭センターひなたの森」を開所しています。
- 「日向市こども家庭センターひなたの森」の職員は、センター長（こども課長）のほか、統括支援員（子育て支援係長・母子保健係長）や専門職（保健師・社会福祉士・保育士等）となりますが、それぞれ市庁舎に在席しているため、常駐している職員がおらず、機能が分離しています。
- 母子保健に関する健診のほか、成人を対象とした定期健診や各種がん検診で年に 20～25 回程度、事後教室等でも年に 10 回程度使用しています。

【利用状況等】

建築年月日	旧館：昭和 57（1982）年 2 月 1 日 新館：平成 4（1992）年 5 月 1 日
延床面積	1,346.75 ㎡
構造	鉄筋コンクリート造 2 階建て

参考資料-図 18：日向市民健康管理センターの外観

（3） 日向市中央公民館

- 昭和 56（1981）年建築で、老朽化が進行し、建物・設備共に修繕・維持補修が増加しており、更新（建て替え）または大規模改修が必要です。
- ホール設備の老朽化については、更新を望む声が多い状況です。
- 令和 6（2024）年度のホールや諸室等の稼働率平均は約 27%となっており、幼児室や調理室の利用が少なくなっています。
- 令和 6（2024）年度のホールの稼働率は約 29%ですが、460 席が満席になることは少なく、300 席程度の使いやすいホールや楽屋の充実を希望する声があります。
- 利用団体の固定化と高齢化が進んでおり、若者や子育て世代が集まる場所がない等の市民ニーズに対応できていません。
- 利用団体によっては、個室やプライバシーを確保できる個室を希望する声があります。

【利用状況等】

建築年月日	昭和 56（1981）年 3 月 30 日
延床面積	3,091.79 ㎡
構造	鉄筋コンクリート造 3 階建て
利用者数	34,138 人
稼働率平均	26.5%

参考資料-図 19：日向市中央公民館の外観

（4） 市民活動支援センター

- 平成元（1989）年建築の文化交流センター小ホール 2 階を利用しています。
- 令和 7（2025）年度までの市民活動支援センターの指定管理で運営されていましたが、令和 8（2026）年度からは市直営となり、地域コミュニティ課が市庁舎から市民活動支援センター内に移動し、職員が常駐します。
- 登録団体は 40 団体あり、貸館の稼働率は約 23%です。市民活動講座への参加は関係者が多く、一般の参加者は少ない状況です。
- 登録団体交流会の参加率は約半数で、同じグループが定期的に参加しています。
- 市民活動支援センターには、男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」が併設されています。

【利用状況等】

建築年月日	平成元（1989）年 10 月 1 日 ※文化交流センター小ホール 2 階
延床面積	406 ㎡
構造	鉄筋コンクリート造 2 階建て
利用者数	市民活動支援センター2,643 人 さんぴあ 1,570 人
稼働率	23.1%

参考資料-図 20：市民活動支援センター外観

（5）　その他の関連施設

①　東郷地区文化センター

平成 4（1992）年建築で、現在は主に文化財の収蔵・保管場所として使用しており、ホールの舞台のみ年 10 回程度の貸出を行っています。

【利用状況等】

建築年月日	平成 4（1992）年 2 月 1 日
延床面積	2,064.00 ㎡
構造	鉄筋コンクリート造 2 階建て
利用者数	ホール舞台のみ貸出あり（年 10 回程度）

参考資料-図 21：東郷地区文化センターの外観

②　地域子育て支援拠点（日向商工会館１階）

市では、NPO 法人「こども遊センター」に業務委託し、日向商工会館 1 階で地域子育て支援拠点事業「つどいの広場」やファミリーサポートセンター事業を実施しています。こどもの遊び場もありますが、約 50 ㎡と手狭なため利用者からは屋内遊び場の整備が求められています。また、利用者や子育て世代からは、地域子育て支援拠点事業の制度拡大（土日の利用）やこどもの一時預かり事業等についても要望が寄せられています

3. 事業手法の検討

(1) PPP／PFI 導入ガイドラインに基づく検討の流れ

事業手法については、「公共施設等における PPP／PFI 導入ガイドライン」を踏まえた検討を行いました。

参考資料-図 22：PPP／PFI 導入検討の流れ
出典：日向市「公共施設等における PPP／PFI 導入ガイドライン」
(https://www.hyugacity.jp/sp/tempimg/20210331162352.pdf 平成 30（2018）年 10 月)

（2） PPP 手法の定性評価

① 全体評価

各手法について、以下の評価項目の視点で評価を行いました。

No,	定性評価の項目	左記の説明	評価結果
1	民間の参入が見込まれる事業か	安定的かつ継続的なサービス需要があること、または、民間に同種・類似の業務が存在することなどにより、民間の事業者の参入が見込まれるか。	図書館複合施設の整備及び維持管理・運営については、他自治体でも PPP 手法に含まれる PFI 手法、DBO（DB）手法、民間委託や指定管理者制度の活用実績があり、一定の市場規模・需要が存在すると予想されることから、民間参入の可能性が高い一方で、維持管理・運営を含めた一括発注の場合、地元企業の参入障壁も高くなることが想定される。
2	民間のノウハウを活用して創意工夫できる範囲が広い事業か	施設内容や運営部分に民間の創意工夫を加える余地が大きく、民間のノウハウの活用により、効率的・効果的なサービス提供が可能であるか。運営に伴う収入が見込める事業で、民間の経営ノウハウの活用により、需要の増加や収益性の向上が期待できるものは、導入の適性が高いものと考えられる。	図書館サービスの多様化や ICT 活用、複合施設におけるカフェ併設、イベント企画等、民間事業者のノウハウや創意工夫が活かせる余地があるが、図書館運営での収入はなく、収益性については期待できない。
3	民間に任せられる事業か	設置主体や管理主体など、法的に民間事業者が事業主体になることが制限されていないか（制限がない範囲を民間に委ねることができないかも検討する）。 例：学校の設置・運営主体は地方公共団体または学校法人に限定されているが、建て替え・維持管理等の業務は民間事業者が行うことも可能。	図書館複合施設の設置主体は地方公共団体であるが、設計、建設、維持管理・運営業務の一部は民間事業者への発注（委託）が可能であり、法的な制約もないが、好事例とされる他自治体においては、維持管理・運営を含めた一括発注事例は少なく、直営や指定管理者制度の活用が多い。
4	民間に期待する成果が明確な事業か	民間事業者に公共サービスを委ねることによってサービス水準が低下しないよう、事業の成果が数値化できるなど、達成すべきサービス水準が明確に規定できるか（提供されるサービスの質のモニタリングも行いやすく、客観的な評価が可能となる）。	図書館サービスの水準（開館時間、蔵書数、貸出冊数、利用者数等）を定量的に設定し、モニタリングや評価を行うことができるため、民間に期待する成果を明確に規定できる。
5	国や他の地方自治体が導入している事業か	国や他の地方公共団体が PPP 手法を導入している事業は、民間の資金、経営能力、ノウハウを活用しやすい事業とも考えられる。	他自治体においても図書館の設計、建設、維持管理・運営に PPP 手法に含まれる PFI 手法、DBO（DB）手法、指定管理者制度を導入している事例がある。

② PFI 手法【BTO 方式】の定性評価

PFI 手法【BTO 方式】の適合性について評価を行った結果は以下のとおりです。

No,	定性評価の項目	左記の説明	評価結果
1	初期投資の比率が少ない事業か	PFI の場合、公債などによる資金調達に比べて割高な民間資金借入れによる金利負担の増加というデメリットがあるため、一般的に運営・維持管理費に比して初期投資である施設建設費が大きい事業については、この増加した金利差をカバーできないので、従来型手法が向いていることになる。	図書館複合施設整備事業は、建設費など初期投資の割合が全体コストに占める比率が高い傾向にあるため、PFI 手法による金利負担増加の影響を十分に考慮する必要がある。
2	設計・建設・維持管理・運営を一括して発注できる事業か	PFI の場合、施設の設計・建設・維持管理・運営を民間事業者がノウハウを生かしながら一体的に担うことにより、サービスを向上しつつ、事業全体に要する経費を削減することができる。 よって、維持管理・運営面を考慮した施設の設計・建設を行うため、一括発注をすることが望ましいことになる。	設計、建設、維持管理・運営を一体的に民間事業者へ発注（委託）することで、施設のライフサイクル全体を通じた効率化やサービス向上が期待できるが、好事例とされる他自治体では、運営を含めた一括発注事例は少なく、直営や指定管理者制度の活用が多い。
3	資金調達の条件が不利にならない事業か	PFI の場合、事業主体が民間事業者であるため、従来型手法であれば受けることができた国庫補助負担金等を受けられない場合がある。 よって、PFI の場合でも国庫補助負担金や地方交付税措置を同じように受けることができるかどうかなど、PFI 手法と従来型手法を比較して、PFI の場合に資金調達上のデメリットが存在しないことが必要である。	補助制度や地方債の活用可能性、民間資金調達コスト等を比較し、PFI 手法による資金調達上の不利がないかを評価する必要がある。
4	時間的余裕がある事業か	PFI の場合、民間事業者の募集、運営、契約締結など PFI 法に基づく事務手続等が複雑で、相当の時間を要する。 また、民間事業者のノウハウの十分な活用を図るために、民間事業者からの意見の反映のための手続や民間事業者の提案作成などに要する時間を十分確保しなければならない。	PFI 手法を活用する場合、民間事業者による SPC の運営に固有のコストが生じるとともに、民間事業者の募集・選定や契約手続等に一定の期間を要することから、事業スケジュールに十分な余裕があるかを確認する必要がある。

(3)　PPP／PFI 手法の適合性の検討（評価結果の総括）

各手法の適合性についての評価を行った結果は以下のとおりです。

評価視点	従来型手法		PPP 手法				PFI 手法【BTO 方式】	
			DB 方式		DBO 方式			
民間ノウハウの発揮（サービス水準向上）	設計、建設、維持管理・運営をそれぞれ個別発注のため限定的。	△(1)	設計、建設の一括発注により効果が期待。	○(2)	設計、建設、維持管理・運営の一括発注により効果が期待。	◎(3)	同左	◎(3)
公民連携(共創)	指定管理者制度	◎(3)	PPP 手法	◎(3)	同左	◎(3)	同左	◎(3)
コスト縮減（経済性）	分割発注により効果が低い。	△(1)	一括発注により効果が期待。	◎(3)	同左	◎(3)	DBO に比べ金利負担大。	○(2)
財政負担の平準化	地方債活用で一定の平準化可能。	○(2)	同左	○(2)	同左	○(2)	割賦払いにより平準化可能。	◎(3)
リスク分担	ほとんどを市が負担。	△(1)	設計、建設の一部リスクを民間移転可能。	○(2)	設計、建設、維持管理・運営の一部リスクを民間移転可能。	◎(3)	同左	◎(3)
地元企業の参入	参入障壁は低い。	◎(3)	DBO・PFI に比べ参入障壁は低い。	○(2)	コンソーシアム組成、地元企業育成の枠組みが必要。	△(1)	SPC 組成、地元企業育成の枠組みが必要。	△(1)
事業者選定手続	各発注の手続期間が短い。	◎(3)	一定の手続期間が必要。	○(2)	一定の手続期間必要。運営までの一括選定が必要。	△(1)	運営までの一括選定可能。PFI 法の手続が必要。	△(1)
運営への市の関与	直営または指定管理者制度	◎(3)	同左	◎(3)	－	○(2)	－	△(1)
総合評価	○(17)		◎(19)		○(18)		○(17)	

（4）　定量評価・簡易な検討（国土交通省「VFM 簡易算定モデル」より）

従来型手法と PFI 手法について、定量評価として国土交通省「VFM 簡易算定モデル」により簡易な検討を行った結果は以下のとおりです。

項目	従来型手法	PFI 手法 【BTO 方式】
① 整備等（運営等を除く）費用	73.4 億円	61.2 億円
② 運営等費用	24.0 億円	23.8 億円
③ 調査等費用	0 億円	0.9 億円
④ 資金調達費用	7.4 億円	9.7 億円
⑤ 利用料金収入	0 億円	0 億円
⑥ 税金	0 億円	0.5 億円
⑦ 税引後損益	0 億円	1.3 億円
⑧ 補助金・交付金等	-36.7 億円	-30.1 億円
計	68.1 億円	67.3 億円
合計（現在価値）	57.9 億円	56.6 億円
財政支出削減率（VFM）	－	**2.2%**

※１ ①整備等費用、②運営等費用、③調査等費用の一部及び⑧補助金・交付金等の金額並びに各種税率等を除き、国土交通省「VFM 簡易算定モデルマニュアル」の平均値等を採用。

※２ DBO 方式は、③調査等費用の一部（SPC 運営・設立費用）が不要となること、④資金調達費用が従来型手法と同等となることから、PFI 手法【BTO 方式】と比較し、財政支出削減率（VFM）が大きくなることが想定されます。